第５表　Ａ区出土土器観察表⑤

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm)　(　)：復元 口径	底径	器高	色調 外面	色調 内面	焼成	調整　文様 外面	調整　文様 内面	胎土(上：mm　下：量) A	B	C	D	E	備考	実測番号
P23 第20図	105	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	(26.2)	—	—	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR5/3 明褐灰	良好	条痕、連続貝殻復縁文	条痕の後ナデ	3 僅					丸尾Ｂ	351
	106	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	条痕、連続貝殻復縁文	条痕	3.5 僅	微 少				丸尾Ｂ	332
P24 第21図	107	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	条痕、連続貝殻復縁文	条痕の後ナデ	4 少	微 少				丸尾Ｂ	349
	108	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR7/1 明褐灰	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	条痕、貝殻復縁による２段以上の斜位の連続刺突文	条痕の後ナデ	2 多	微 多				丸尾Ｂ	35
	109	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明褐灰	5YR4/2 灰褐	良好	条痕、凹線文、貝殻復縁による２段以上の連続刺突文	条痕	1 少	微 僅				丸尾Ｂ	38
	110	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明褐灰	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	条痕の後ナデ、貝殻復縁による連続刺突文	条痕の後ナデ	1.5 少	微 僅				丸尾Ｂ	68
	111	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	5YR7/1 明褐灰	良	横方向の条痕の後ナデ、貝殻復縁による１段以上の刺突文	ナデ	1.5 僅	微 僅				丸尾Ｂ	86
	112	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明褐灰	10YR5/2 灰黄褐	良好	条痕、貝殻復縁による２段の斜位の連続刺突文	条痕の後ナデ	1 少	微 少				丸尾Ｂ	85
	113	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/2 明褐灰	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	横方向ナデ、貝殻刺突文	横方向条痕の後ナデ	7 少					丸尾Ｂ	87
	114	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明褐灰	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	横方向の条痕、貝殻刺突文	横方向の条痕	3.5 少	微 僅				丸尾Ｂ	95
	115	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/2 灰褐	7.5YR7/1 明褐灰	良好	条痕の後ナデ、貝殻刺突文	条痕	1 僅	1 僅				丸尾Ｂ	93
	116	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	貝殻刺突文、条痕の後ナデ、ナデ	条痕の後ナデ	4 多	微 多				丸尾Ｂ 内面に黒斑あり	108
	117	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/2 灰褐	10YR6/1 褐灰	良好	条痕、貝殻刺突文、ナデ	条痕	1 少	微 僅				丸尾Ｂ	299
	118	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR4/1 褐灰	7.5YR4/2 灰褐	良好	穿孔、条痕	条痕	1 少	微 少				丸尾Ｂ 穿孔あり	342
	119	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR7/1 明褐灰	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	貝殻刺突文、条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	1 多	1 多				丸尾Ｂ	101
	120	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	貝殻刺突文、ナデ	条痕の後ナデ	1 多	微 多				丸尾Ｂ	80
	121	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR7/1 明褐灰	10YR7/1 灰白	良好	ナデ、横方向の条痕の後貝殻刺突文	横方向の条痕		微 少				丸尾Ｂ	62
P25 第22図	122	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	(9.6)	—	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	良好	横方向と斜方向の条痕、貝殻復縁による斜位の連続刺突文	横方向と斜方向の条痕、微サエナデ	2 少	1 多	1 少			丸尾式 外面にススト付着	677
	123	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR7/1 明褐灰	7.5YR5/2 灰褐	良好	条痕の後ナデ、２段以上の貝殻復縁による連続刺突文	条痕の後ナデ	1 少					丸尾式	10
	124	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明褐灰	10YR5/2 灰黄褐	良好	横ナデ、貝殻刺突文	条痕	1 少					丸尾式	19
	125	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明褐灰	7.5YR5/2 灰褐	良好	横ナデ、斜方向の条痕、貝殻押引文	横方向条痕	1 少	微 僅				丸尾式	33
	126	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	5YR7/1 明褐灰	良好	ナデ、横方向の条痕、ナデの後貝殻刺突文	横・斜方向の条痕		微 少				丸尾式	53
	127	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明褐灰	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	横方向条痕、貝殻刺突文（摩耗気味）	横方向条痕	1 少					丸尾式 口唇部にキザミ	67
	128	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR7/1 明褐灰	良	ナデ、条痕、貝殻刺突文	条痕の後ナデ	3 僅	微 少				丸尾式	89
	129	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR7/1 明褐灰	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	横方向条痕の後ナデ、貝殻刺突文	ナデ	1 少					納屋向	15
	130	Ａⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明褐灰	10YR4/2 灰黄褐	良好	横ナデ、貝殻刺突文	横方向条痕	1 少					納屋向	21

第６表　Ａ区出土土器観察表⑥

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	法量(cm)　(　):復元			色調		焼成	調整　文様		胎土(上:mm　下:量)				備考	実測番号
			器種	口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E		
P25 第22図	131	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	—	—	7.5YR7/1 明褐灰	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	条痕	条痕の後ナデ	1 少				納屋向	22
			深鉢														
	132	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	—	—	5YR7/1 明褐灰	10YR5/2 灰黄褐	良好	横ナデ、貝殻刺突文	横方向ナデ	1 少				納屋向	31
			深鉢														
	133	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR7/1 明褐灰	良好	ナデ、横方向の条痕、横・斜方向のナデの後、貝殻刺突文と竹straw文	横・斜方向のナデ	7 微	微 少			納屋向	54
			深鉢														
	134	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	—	—	7.5YR7/1 明褐灰	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	横方向条痕の後ナデ、貝殻刺突文	横方向条痕の後ナデ	2.5 微	微 微			納屋向	148
			深鉢														
P26 第23図	135	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	(36.1)	—	(45.1)	2.5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐		ナデ、不定方向の条痕	ナデ	2 少	1 多				686
			深鉢														
	136	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	(26.2)	10.2	33.9	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/6 橙色		ナデ、貝殻腹縁による斜位の連続刺突文、不定方向の条痕	横・斜方向の条痕、指オサエ、ナデ		美 少			松添式 内外面にスス付着	678
			深鉢														
P27 第24図	137	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	—	—	5YR4/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	7 少	1 少	1 微		後期前葉	333
			深鉢														
	138	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	良	貝殻刺突文、ナデ	ナデ	2 微	微 微			後期前葉	224
			深鉢														
	139	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	—	—	10YR4/1 褐灰	5YR7/1 明褐灰	良好	ナデ、斜方向の条痕の後ナデ	横・斜方向の条痕の後ナデ		1 少			後期前葉	244
			深鉢														
	140	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	—	—	5YR7/1 明褐灰	10YR5/2 灰黄褐	良好	条痕の後ナデ、ナデ	ナデ	3 微	微 微			後期前葉	248
			深鉢														
	141	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/2 灰赤	7.5YR5/2 灰赤	良好	貝殻刺突文、ナデ	ナデ		1 微			後期前葉	198
			深鉢														
	142	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	—	—	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	良好	凹線文、ナデ	ナデ	微 多	1 多	微 微		後期前葉	194
			深鉢														
P28 第25図	143	A1011	縄文土器	(19.8)	7.3	21.2	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙		ナデ	ナデ、横方向の条痕後ナデ、斜方向の条痕後ナデ	2 微	1 多			外面一部スス付着	689
			深鉢														
	144	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	(43.8)	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良	条痕の後ナデ	条痕の後ナデ(磨滅気味)	4 少	微 少			無文条痕	306
			深鉢														
	145	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	(29)	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	条痕の後荒いナデ	条痕の後荒いナデ	3 微	微 多	微 微		無文条痕	323
			深鉢														
P29 第26図	146	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	9	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	条痕、ナデ	条痕	2 少	1 多			底部 白色粘土	367
			深鉢														
	147	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	7.35	—	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR4/3 にぶい赤褐	良好	ナデ、指ナデ	ナデ、指ナデ	1 微	微 少			底部 外面に黒斑あり	374
			深鉢														
	148	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	(6.4)	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	条痕の後ナデ	指ナデ	2 微	1 少			底部	371
			深鉢														
	149	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	(5.2)	—	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR5/2 灰褐	良	条痕	ナデ	微 微	微 微			底部	386
			深鉢														
	150	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	5.6	—	2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y4/1 黄灰	良好	ナデ	ナデ	2 微	1 少			底部	388
			深鉢														
	151	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	7	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	指ナデ、条痕	指ナデ、条痕	4 少	1 少			底部	375
			深鉢														
	152	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	9.1	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	条痕、条痕の後ナデ	条痕、工具によるナデ、指ナデ	4 少	1 少			底部　接13	368
			深鉢														
	153	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	9.25	—	5YR5/3 にぶい赤褐	5Y4/1 灰	良	条痕の後ナデ	ナデ、指ナデ	4 微	微 少			底部内面に黒斑あり	385
			深鉢														
	154	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	(9.8)	—	10YR5/2 灰黄色	5YR7/1 明褐色	良好	ナデ	ナデ、条痕	4 少				底部 白色粘土	370
			深鉢														
	155	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	(11.1)	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ	ナデ、指オサエ		1 多			底部	389
			深鉢														
	156	Ａ Ⅱ 期	縄文土器	—	10	—	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR4/3 にぶい赤褐	良好	ナデ	ナデ	4 少	微 微			底部	372
			深鉢														

第７表　A区出土土器観察表⑦

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm) ( ):復元 口径	底径	器高	色調 外面	色調 内面	焼成	調整 文様 外面	調整 文様 内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測番号
P29 第26図	157	A Ⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	6.2	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	良	条痕	条痕、ナデ	3 僅	微 僅				底部、内面に黒斑あり 白色粘土	373
	158	A Ⅱ刷	縄文土器 深鉢	—	6.45	—	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR4/3 にぶい赤褐	良好	条痕	条痕、ナデ	5 少		2 僅			底部、外面に黒斑あり	369
P30 第27図	159	A Ⅱ刷	縄文土器 台付皿	(23)	—	—	7.5YR7/1 明褐灰	5YR5/3 にぶい褐	良好	ミガキ	ミガキ	3 僅	1 少					400
	160	A Ⅱ刷	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐	良好	荒いナデ	工具によるナデ	微 多	微 多					249
	161	A Ⅱ刷	縄文土器 台付皿	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	条痕	貝殻刺突文、条痕の後ナデ	0.5 僅						309
	162	A Ⅱ刷	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/2 灰褐	7.5YR4/2 灰褐	良好	工具によるナデ	ナデ	微 多	微 多	微 僅				252
	163	A Ⅱ刷	縄文土器 台付皿	(27.8)	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐	良好	工具ナデ	工具ナデ	3 少	2 多				後期中葉	394
	164	A Ⅱ刷	縄文土器 台付皿	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	2.5YR5/2 灰赤	良好	縦・横方向への条痕、ナデ	横・斜方向への条痕、ナデ	1 僅	微 僅				後期前葉 内面に赤色顔料あり	229
	165	A Ⅱ刷	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	10YR4/1 褐	良好	ミガキ	ミガキ	2 僅	1 少				後期中葉 内面に黒斑あり	398
	166	A Ⅱ刷	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ、凹線文	3 少	1 多				後期中葉	397
	167	A Ⅱ刷	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ、貼付突帯	条痕の後ナデ	4 少	微 僅					436
P31 第28図	168	A Ⅱ刷	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	5YR4/2 灰褐	10YR4/3 にぶい黄褐	良好	ナデ	ミガキ？	2 僅	1 少					403
	169	A Ⅱ刷	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	10YR4/1 褐灰	良好	ナデ	ナデ	3 僅	1.5 僅				後期中葉	399
	170	A Ⅱ刷	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	5YR4/2 灰褐	7.5YR4/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ	4 少	2 多	1.5 僅				396
	171	A Ⅱ刷	縄文土器 台付鉢or皿	—	(14.4)	—	5YR4/3 にぶい赤褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	横・斜方向の条痕、ナデ	工具によるナデ	3 多	微 多					221
	172	A Ⅱ刷	縄文土器 台付鉢or皿	—	(9.1)	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良	条痕の後ナデ、指ナデ、ナデ		2 少	微 僅					395
	173	A Ⅱ刷	縄文土器 台付鉢or皿	—	(5.5)	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ、凹線文	ナデ	2 少					後期中葉 穿孔あり	300
	174	A Ⅱ刷	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ、やや風化	ナデ	4 多	微 少					245
	175	A Ⅱ刷	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良	ナデ	ナデ		1 多					273
	176	A Ⅱ刷	土器加工円盤	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐		条痕後ナデ	条痕後ナデ	1 僅						578
	177	A Ⅱ刷	土器加工円盤	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良	ナデ	条痕		1 僅					579
	178	A Ⅱ刷	土器加工円盤	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	2.5YR4/1 赤灰	良	条痕	条痕の後ナデ	1 僅	微 僅	1 少				577
	179	A Ⅱ刷	土器加工円盤	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	条痕	条痕	1 僅	微 僅	微 少			穿孔あり	575
P34 第31図	180	SE３	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	条痕	条痕	2 僅	微 僅				条痕 内面に黒斑あり	402
	181	SE３	縄文土器 深鉢	—	10.8	—	5YR5/3 にぶい赤褐	10YR7/1 灰白	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ	3 少	1 僅				底部	401
	182	SE３	縄文土器 深鉢	—	(9.8)	—	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐	良	条痕の後ナデ	条痕	5 多	1 多				脚台 内面に黒斑あり	404

第８表　A区出土土器観察表⑧

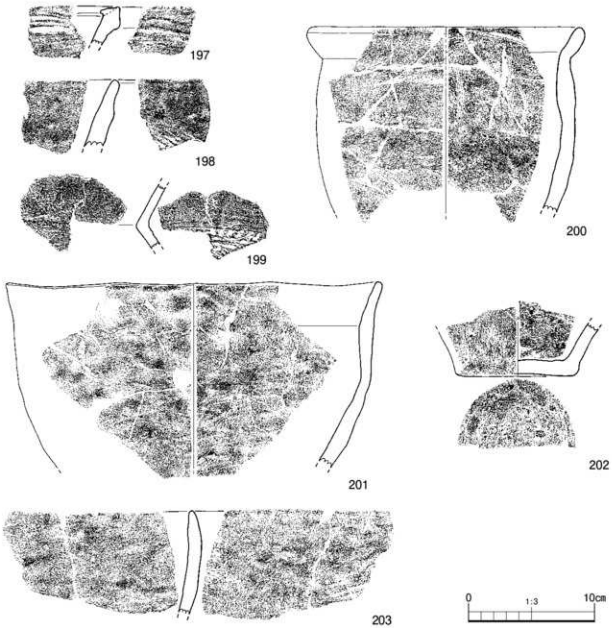
掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm)　(　):復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整　文様 外面	内面	胎土(上:mm　下:量) A	B	C	D	E	備考	実測番号
P34 第31図	183	A Ⅲ層	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	2.5YR4/3 にぶい赤褐	良好	凹線文に格状刺突文、ナデ、条痕の後ナデ、指ナデ、キザミ	条痕の後ナデ		微 僅	1.5 多			底部　口唇部にキザミ	420
			深鉢															
	184	SE 3	縄文土器	—	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	条痕	条痕	1 少	1 多				春日式	443
			深鉢															
	185	A Ⅲ層	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/1 褐灰	良好	貝殻刺突文、突帯にキザミ	ナデ	2 僅	微 多				船元系	419
			深鉢															
	186	A Ⅲ層	縄文土器	(13.3)	—	—	7.5YR4/2 灰褐	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	条痕の後ナデ、つまみによる貼付突帯	条痕	3 少	微 僅		1 少		川水流Ⅱ類 口唇部にキザミ 外面に黑斑あり	415
			深鉢															
	187	A Ⅲ層	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良	ナデ、指ナデ、指オサエ、つまみによる貼付突帯	条痕の後ナデ	2 僅	2 多				川水流Ⅱ類	416
			深鉢															
	188	SE 3	縄文土器	—	—	—	2.5YR4/3 オリーブ褐	7.5YR4/2 灰褐	良	ナデ、つまみによる貼付突帯	条痕	4 少	微 僅	1 僅			市来	437
			深鉢															
P35 第32図	189	SE 3	縄文土器	—	—	—	5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	条痕、貝殻刺突文	ナデ	4 少	1 少				市来	405
			深鉢															
	190	A Ⅲ層	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR3/1 黑褐	良好	条痕の後ナデ、ナデ、刺突文	条痕の後ナデ	2 僅	1 少	1 僅			市来	417
			深鉢															
	191	A Ⅲ層	縄文土器	(27.6)	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良	磨滅により不明、貝殻刺突文	条痕		微 僅				丸尾B	422
			深鉢															
	192	A Ⅲ層	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	条痕、貝殻押引き	条痕の後ナデ	3 僅	1 少	1 僅			丸尾A 外面に黑斑あり	421
			深鉢															
	193	A Ⅲ層	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	貝殻押引き、条痕後ナデ	条痕後ナデ	1 僅	微 多				丸尾A	441
			深鉢															
	194	A Ⅲ層	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ	1 僅	微 多				後期前葉	418
			深鉢															
	195	A Ⅲ層	縄文土器	(18.6)	—	—	7.5YR7/1 明褐白	7.5YR3/1 黑褐	良好	ナデ、条痕、貝殻刺突文	条痕	2 少	2 少				丸尾B	413
			深鉢															
	196	A Ⅲ層	縄文土器	—	(7.8)	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良	ナデ	ナデ	2 僅	1 多				底部	412
			深鉢															

第５節　Ｂ区の調査（第33図）

Ｂ区は調査地の南東部の調査区である。Ａ区と同様、建物基礎が設けられる位置にあたる。短軸6.0m、長軸8.3mの調査面積49.8㎡を測る長方形の調査区である。現地表面以下の整地用に施された盛土層（Ⅰa層）が約1.3m堆積し、その直下には、調査区南西の一部でⅡ層の堆積が遺存していたものの、Ⅰa層の直下にⅤ層が露頭している状況で、Ⅰa層に多量に含まれる岩砕がⅤ層の表面に押しつぶされるように残っており、岩砕が入っていたくぼみが検出されたⅤ層表面の所々に残った。結果、Ｂ区では遺構は確認されず、調査区南西の一部遺存していたⅡb層の堆積が認められたのみで、出土遺物もⅡb層に包含された遺物（第34図、第57図377）のみである。

197～203はB区Ⅱb層で出土した土器である。197は松山式土器で口唇部には内傾する面を持ち、面上には沈線を施す。198は小破片であるが、丸尾式土器に後続する納屋向タイプの一群と思われる。199は西平式土器と思われ、くの字に外反する口縁部を持ち、屈曲部の下に連点文とその下に沈線を施す。器壁は薄手である。200は、くの字に外反する短い口縁部を持ち、胴部は丸味を帯びる。粗雑な作りで器壁は厚く、粗いナデ仕上げである。201は口が大きく開き、器高は低いと思われる。粗雑な作りで器壁は厚く、粗いナデ仕上げである。202は口縁部が内湾しながら立つ。200、201同様に粗雑な作りで器壁は厚く、粗いナデ仕上げである。202は口縁部が内湾しながら立つ。

第33図　Ｂ区調査区図（1/100）



第34図　B区出土土器実測図（1／3）

第９表　B区出土土器観察表

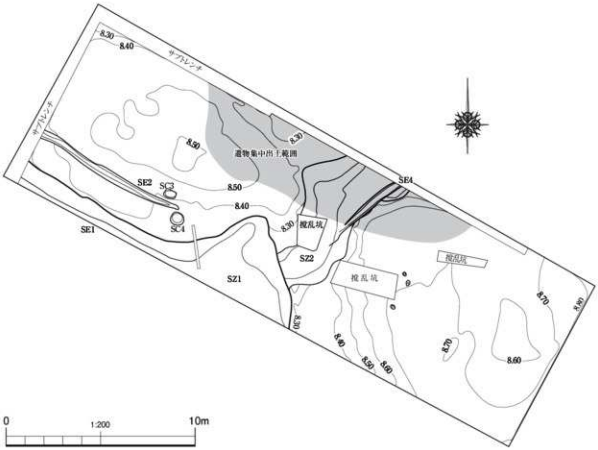
掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm)　(　):復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整　文様 外面	内面	胎土(上:mm　下:量) A	B	C	D	E	備考	実測番号
P45 第34図	197	BⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	5YR6/4 にぶい橙	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ	1 微	微 微				松山式	571
	198	BⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	10YR5/2 灰黄褐	良好	ナデ、刺突文	ナデ	4 多	1 少				外面に黒斑あり	570
	199	BⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	N3/0 暗灰	7.5YR4/1 褐灰	良好	円箱文、刺突文、ナデ	ナデ	3 少	1 多	1 微			西平式?	574
	200	BⅡ層	縄文土器 深鉢	(21)	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	2.5YR5/3 にぶい赤褐	良好	ナデ	ナデ	3 多	1 少					573
	201	BⅡ層	縄文土器 深鉢	(29.3)	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ	ナデ	5 多	微 少				内外面に黒斑あり	568
	202	BⅡ層	縄文土器 深鉢	—	8.4	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ	ナデ	2 微	2 微	1 微			内外面に黒斑あり	572
	203	BⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ナデ	ナデ	2 多	1 微				内面に微かに黒斑あり	569

第６節　Ｃ区の調査（第35図）

Ｃ区は調査地の北東部の調査区である。ピロティ構造の建物中で、唯一１階部分に設けられる部屋の位置にあたる。短軸10.8m、長軸30.0mの調査面積324㎡を測る長方形の調査区である。３調査区のうち、現地表面以下の整地用に施された盛土層（Ⅰa層）が最も厚く2.0～3.5m堆積している。Ⅰa層除去後調査区の東側約１／３を除いては、Ⅱa層に類似するものの色味はⅡa層に似るが、シルト質が強く水分を多く含んだⅡb層が全体に厚さ５～10cmほど堆積していた。Ⅱa層同様、縄文時代後晩期の遺物包含層と判断できるが、Ⅱa層との関係を解決することはできなかった。Ⅱb層の堆積は調査区西側に広く堆積していたものの遺物の平面分布には偏りが見られ、個体が解るほどの土器片が、調査区中央部の北側で集中して出土したことをのぞいては、他の地点では出土しなかった。

遺構は調査区の中央から西側で確認された。溝状遺構が３条、池状遺構が１基、谷状の落ち込みが１箇所確認された。

Ⅱb層除去後の地山は調査区全体でⅤ層が露出していたが、調査区の東西両側から中央部に向かって下っていく状況が見てとれ、中央部が、浅く谷状に落ち窪んでいたことが伺える。特に調査区の東側では後世の切土造成により、地山層の欠失があるものの50cmほどの高低差があり、削平を受けていない本来の地形は谷部が顕著であったと思われる。今回検出された遺構はいずれもこの谷地形を利用して設けられたことを想起させるものであった。



第35図　Ｃ区検出遺構配置図（１/200）

１号溝状遺構、池状遺構（第36図）

略号は１号溝状遺構をSE１、池状遺構をSE１と付した。調査区の南端の中央部から西側で検出された。遺構は調査区外にも及んでおり全容は確認できない。池状遺構は北側で、後述する谷状の落ち込みを切っている。１号溝状遺構と池状遺構と分けて名称を付しているが、互いの底面の高さも明確な段を確認することはできず、埋土の堆積状況の観察でも先後関係を見ることはできなかったため、同時期の遺構と判断される。

１号溝状遺構は検出された部分の長さは約11.0m以上、幅1.9m以上、深さ85㎝以上を測る。底面は接続する池状遺構から西に向かってわずかに下り勾配になる。埋土は粘質土が主体で最上層（①層）及び最下層（⑤層）ではマンガンを多く含んでおり、土壌が堆積する過程で、水生植物が茂っていたことを伺わせる。遺物は埋土中部（③層）から土師器片（209）や縄文土器片がわずかに出土している。池状遺構は検出された部分範囲では不定形で、最大幅6.0m、深さ約0.65m以上を測る。遺構内の埋土は自然堆積層であるが、全体に混濁したような状況が見られ、粘質土と砂質土が混ざり合う状況が各層で見られ、層の下部近くの④ｃ層では鉄分の割合が非常に高く、さらに下層の④ｄ層はグライ化も見られ、湧水があった可能性も示している。遺物は埋土下部（④層）で土師器片（208～212）が出土している。

205は１号溝状遺構出土の土器である。市来式土器の口縁部と考えられる。断面三角形に肥厚させ、屈曲部上半に連続刻目を施す。

２号溝状遺構（第35図）

略号はSE２と付した。１号溝状遺構の２ｍほど離れた場所で、１号溝状遺構にほぼ平行するようにも走っている。遺構の西側は調査区外に及んでおり、東側は遺構が収束していた。検出された部分の長さ約8.5m以上、幅0.8mを測るが、深さは約８㎝と浅い。埋土には暗褐色のシルト質と粘質土が混合したような土壌が堆積していた。埋土中から遺物は出土していない。

４号溝状遺構（第35図）

略号はSE４と付した。後述する遺構の北側は調査区外に及んでおり、南側は遺構が収束していた。後述する谷状の落ち込みを切っている。検出された部分の長さ約5.0m以上、幅0.5m、深さは約15㎝を測る。溝の底面は北側から池状遺構に向かって下っていく状況が見られたが、途中で収束していることで、互いの遺構の関係性を確認することはできなかった。埋土には黒褐色のシルト質土が堆積していた。埋土中から須恵器杯身の破片（204）や、縄文土器片が出土している。

204は須恵器杯身である。小破片のため詳細は判らないが９～10世紀にかけての製作と考えられる。206、207は中岳Ⅱ式と考えられ、206が胴部から口縁部にかけて、207が胴部にかけての遺存で、同一個体の可能性が考えられる。206は口縁部に向け緩く外反し、端部には面を持つ。207は胴部中位にごく浅い２条の平行する凹線とM字形の凹文を施す。208～212は小型の鉢で、丸底もしくは尖底気味の底部を持つと思われ、体部は口縁部に向け内湾気味に立ち上がる。いわゆる布痕土器である。213は納屋向タイプと呼ばれる土器で胴部中位のやや高い位置に連続貝殻腹縁文を施す。全体に作りが粗雑で口縁部は平縁であろうが、安定していない。214は宮之迫３式土器もしくは宮之迫４式土器である。口唇部に連続刻み目を施し、ややしたに３条以上の凹線を施す。215は市来式土器である。口縁部を断面三角状に肥厚させ、上半に連続刻み

目を施す。

３号土坑、４号土坑（第35図）

略号はそれぞれ、SC３、SC４と付した。２号溝状遺構の東側で収束する両側で、３号土坑が南側、４号土坑が北側で検出された。３号土坑は、平面形はほぼ円形で直径が0.8m、深さ80㎝を測り、４号土坑は楕円形に近い形を呈し長軸0.7m、短軸0.5m、深さ80㎝を測る。ともに底面はほぼ平坦になり、深さも同じである。同様に埋土には暗褐色のシルト質土が堆積しており、遺物は出土していない。埋土の状況、構築場所から２号溝状遺構に関連する施設の痕跡と考えられる。

谷状の窪み（第38図）

略号はSZ２と付した。調査区の中央を南北方向から西南方向に蛇行するような形状で検出された。北東側は調査区外に及び、南側は池状遺構に切られる。また一部を４号溝状遺構と撹乱坑によっても切られている。検出された部分の長さ約7.6m以上、幅3.8m底面までの深さは最深部で75㎝を測るが、南側に向かうに従い浅くなり、池状遺構に切られる付近では深さ20㎝になる。断面形はレンズ状に近いが、上端から底面の間でも数ヶ所の傾斜変換が見られ、その面の幅も0.4～2.0mと安定しない。埋土は自然堆積による埋没が観察でき、いずれも粘質土が堆積している。各層で鉄分、マンガンを含み、埋土中位の②a層から②d層では互層を形成し、砂質土がラミナ状に堆積する箇所も観察されたため、土壌が堆積する過程で水流があったことも伺える。また、埋土に特徴的に含まれるものとして、最上位に堆積する①a層と③a層では５～20㎜の炭化物の粒子が３％程含まれている。存在当時、周辺部に集石遺構などの火処があったことも伺えるが、礫は多数出土するものの、集石遺構を組成する焼石は１点も確認されなかった。

遺物は土器、及び石器が埋土最上層の①a層で多数出土したが、②a層から②d層では出土せず、底面近くの③a層では縄文土器の小破片が数点出土した。ただし、底面近く付近では、人頭大の砂岩の自然礫が15個集中して出土したが、人為的に配されたものであったかについては特定できなかった。

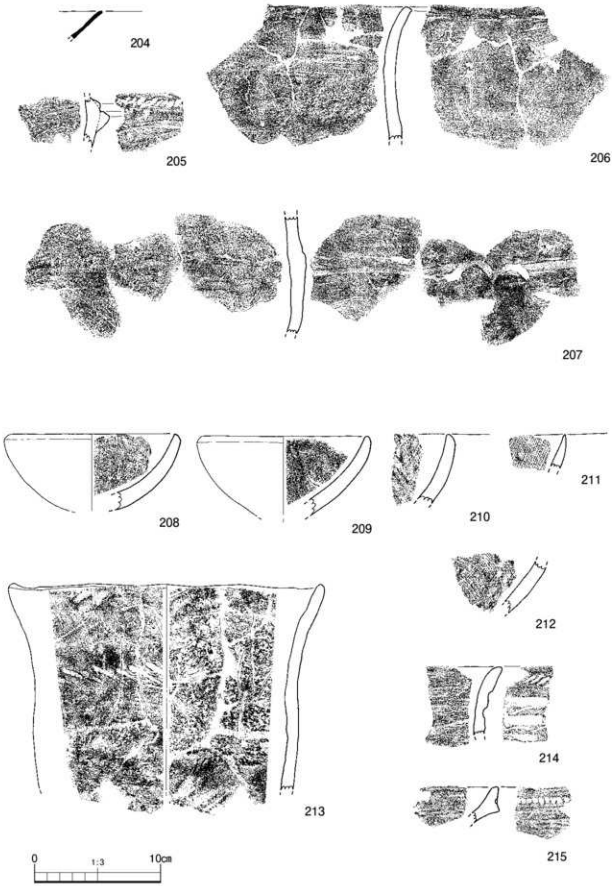
今回確認された「谷状の窪み」は調査区の中央で確認され、先述した調査区の勾配もこの「窪み」に向かって下る。また、この谷状の窪みの上部に堆積していた基本層序Ⅱ層も水平堆積ではなく、この「窪み」を最下部としてレンズ状に堆積し、谷状の窪みの埋土①a層と性質、色味は共に違えども、基本層序Ⅱb層からも大量の遺物が出土し、互いの層位で出土した土器が接合した状況も見られたため、Ｃ区で検出された基本層序Ⅱb層も谷状の遺構が埋没する過程の最終段階に堆積した土壌であると考えられる。

216～331は谷状の窪みの埋土内から出土した土器、及び土製品である。

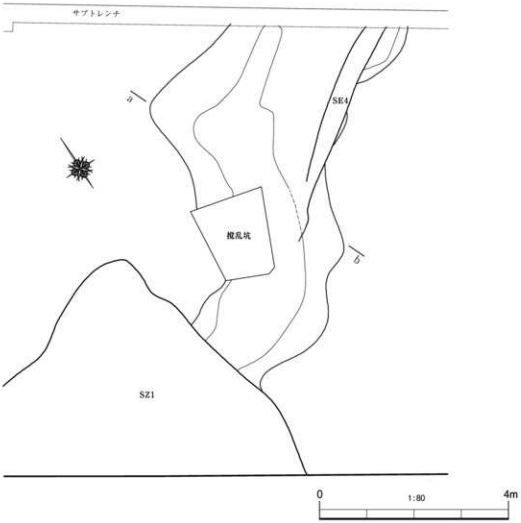
216は宮之迫４式土器である。平行する３本の沈線の上から連続刻み目を施す。

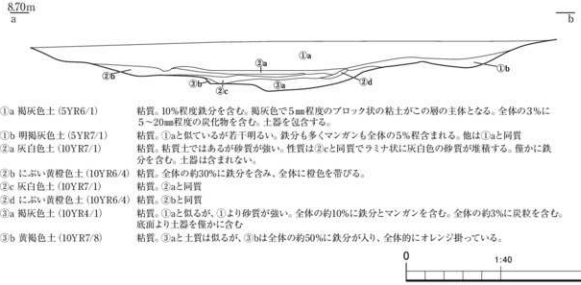
217～233は市来式土器の一群である。いずれも口縁部付近の資料である。217、218は口縁部を断面三角状に肥厚させ、端部は摘まむように内傾する。上半に凹線とその上に連続貝殻腹縁文、下に連続刻目を施す。219～244は口縁部が二重口縁状に内傾する。文様帯は屈曲部の上半に凹線、連続刻目、連続貝殻腹縁文を施すが、224は下半に浅い凹線を二重に施す。225、226は二重口縁状になる口縁部の屈曲部が突帯状に張る。225は屈曲の上半に連続刻み目文、226は凹線を施す。227、228は口縁部が屈曲部を持たずに外反するが、外面に突帯状の肥厚部を有

第36図　C区１号溝状遺構、池状遺構実測図（平面図 S=１/100　土層図１/40）



第37図　C区１号溝状遺構、池状遺構出土土器実測図（1／3）





①a 褐灰色土（5YR6/1）　粘質。10%程度鉄分を含む。褐灰色で5㎜程度のブロック状の粘土がこの層の主体となる。全体の3%に5～20㎜程度の炭化物を含む。土器を包含する。

①b 明褐灰色土（5YR7/1）　粘質。①aと似ているが若干明るい。鉄分も多くマンガンも全体の5%程含まれる。他は①aと同質

②a 灰白色土（10YR7/1）　粘質。粘質土ではあるが砂質が強い。性質は②cと同質でラミナ状に灰白色の砂質が堆積する。僅かに鉄分を含む。土器は含まれない。

②b にぶい黄橙色土（10YR6/4）　粘質。全体の約30%に鉄分を含み、全体に橙色を帯びる。

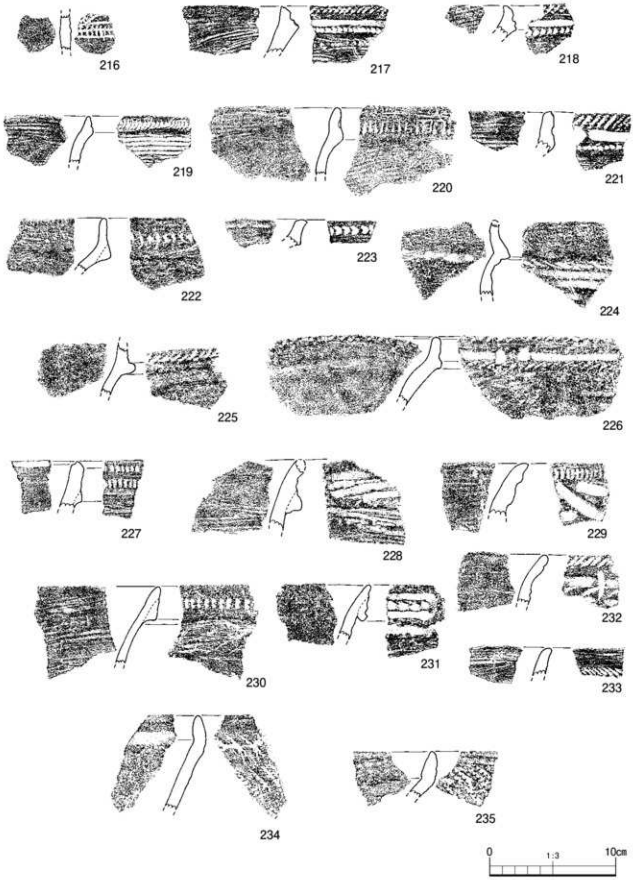
②c 灰白色土（10YR7/1）　粘質。②aと同質

②d にぶい黄橙色土（10YR6/4）　粘質。②bと同質

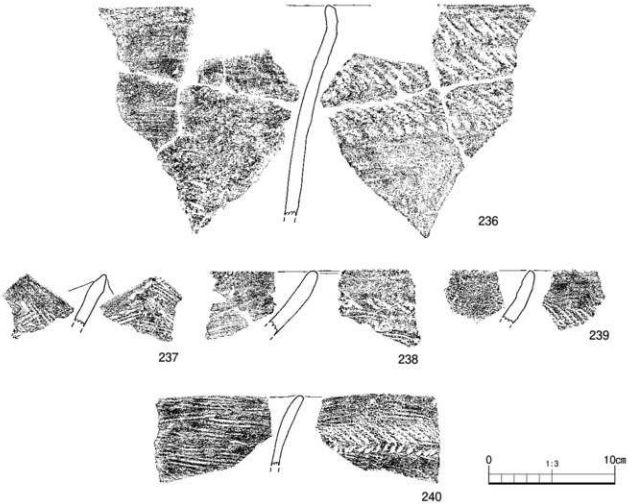
③a 褐灰色土（10YR4/1）　粘質。①aと似るが、①より砂質が強い。全体の約10%に鉄分とマンガンを含む。全体の約3%に炭粒を含む。底面より土器を僅かに含む

③b 黄褐色土（10YR7/8）　粘質。③aと土質は似るが、③bは全体の約50%に鉄分が入り、全体的にオレンジ掛っている。

第38図　C区谷状の窪み（平面図 S=1/80　土層図1/40）



第39図　C区谷状の窪み出土土器実測図①（1/3）



第40図　C区谷状の窪み出土土器実測図②（1/3）

する。やはり肥厚部の上半に文様帯を持ち、227は２段の連続貝殻腹縁文、228凹線文を施す。230、231は口縁部に肥厚帯が見られるが、口縁部は直線的に外反し、外面の口縁部下に粘土帯を貼付けることで肥厚帯をつくる。

234～235は丸尾式土器の一群である237は波状口縁を呈し、それ以外は平縁口縁を呈する。234～236は口縁端部が屈曲して内傾する。236、237は文様帯下に屈曲部が見られないため、丸尾B式土器と考えられる。

241～252は丸尾式土器に後続する納屋向タイプの一群と思われる。文様帯が口縁部の上位に限られる丸尾式土器とは異なり、胴部中位以上に文様を施す。いずれも平縁口縁を呈するが、端部は安定せずうねる（241）。口縁部は外反しながら直線的に開くもの（241、242）、直線的に開くもの（243、244、251、252）、胴部から口縁部にかけて緩く屈曲して開くもの（245）がある。胴部は丸尾式土器に比べ、僅かに丸味を帯び張る（245、250、252）。文様帯は、連続貝殻腹縁文を口唇部近くに施すもの（243、246、247、249）、胴部と口縁部の境に施すもの（245、250、251、252）がある。施文は連続貝殻腹縁文を基本とするが、斜め方向に一定して施すだけでなく、山形に施文するものも見られる（241、245）

253～273は納曽式土器の一群である。プロポーションは２種類に大別され、丸味を帯びた胴部から屈曲を持って口縁部が外反するものタイプ（253、254）、胴部から口縁部に向け直線的に開くタイプ（262）がある。口縁部は波状口縁のもの（253、255、257、259）、平縁口縁のもの（254、256、258）があるが、端部の断面形態でさらにバリエーションが見られ、端部が屈曲して内傾するもの（253、256、257）、直線的に開くもの（254、259、262～267）、三角状に僅かに肥厚するもの（255、260、261）、外反りするもの（258、268）がある。文様帯は胴部中位付近と口縁端部付近に二重以上の直線状の沈線文を施すものが多いが、沈線は平行を基調にはしているが粗雑である。253は沈線文帯の上位に、260、261は口縁端部に連点文を施す。また269は沈線文の上からV字状の凹点を施す。なお、262の器形は納曽式土器とされる群とは異なるものの、文様の特徴から今回は納曽式に含めた。

274～278は中岳Ⅱ式土器である。全体的な特徴として胴部の最大径を最上位に持ち、緩く屈曲し、口縁部は外反り気味に開く（274、275、278）。口縁端部を肥厚させるもの（274、275、277～280、281、283、284）、肥厚しないもの（276、285、286）、端部がSの字状になるもの（287）がある。282は波状口縁を呈し、他は平縁口縁を呈する。文様は器壁外面をナデ調整したのちに胴部の最大径部分、もしくはそのやや上部分と口縁端部の２部位のみに、二重のごく浅い凹線もしくは沈線を施す。またその凹線、沈線の上から三日月形の凹点を施すもの（274～277、286）もみられる。

288、289はいわゆる黒色磨磨土器とされる浅鉢の群である。いずれも口縁部が著しくカーブを描いて外反し、口縁端部は摘まむように僅かに立つ。288は器壁表面の風化がいちじるしいものの、289は内外面に丁寧磨きが残る。289は上加世田式土器に類すると思われる。

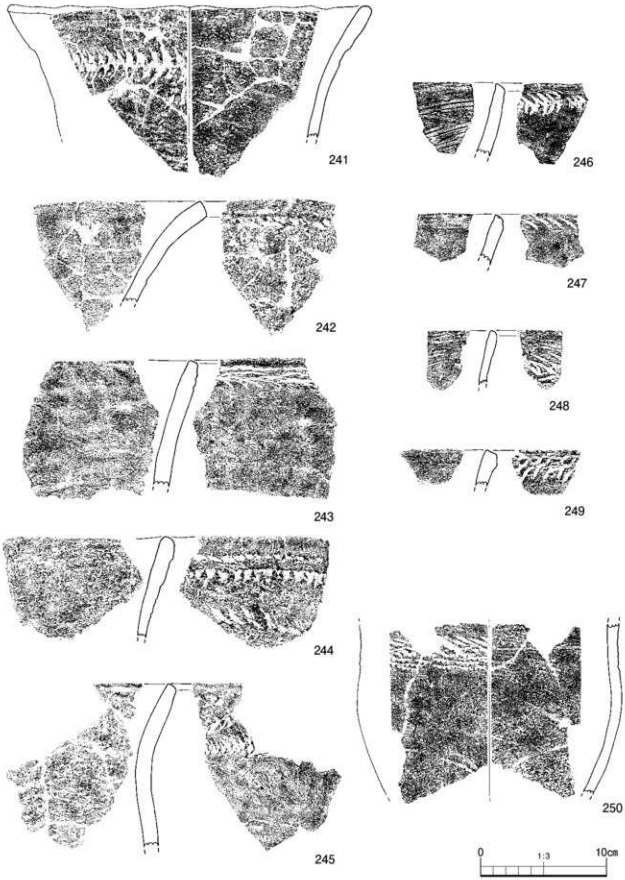
290～311は形式が不明の土器である。

290～309は文様帯がないナデ仕上げの一群である。器壁が灰色味がかっており、器壁は分厚い。胴部最大径を上部に持ち、胴部がくの字に屈曲するもの（295～297、300、308）が多く、口縁部は外反りしながら開くが、303は内湾する。口縁端部は断面三角状に肥厚するもの（290～292）、端部が外傾する面をもつもの（293～296、300、302）、口縁端部が丸味を帯びるもの（297～299）がある。

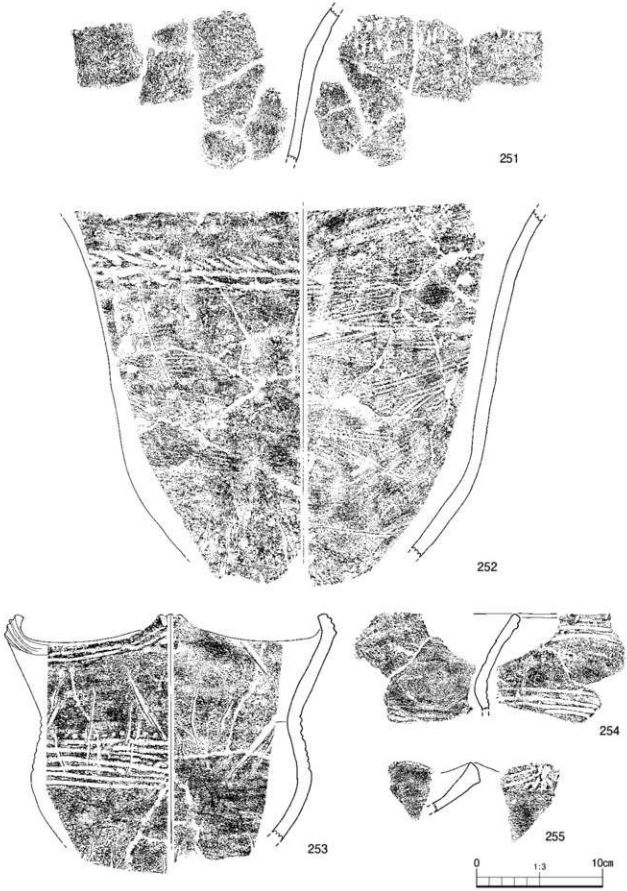
310、312は口縁部に沈線の文様帯を持つ群である。市来式土器、納曽式土器、中岳Ⅱ式土器でも口縁部上位に文様帯を持つタイプがあるが、310、311の口縁部は肥厚せず、全体に器壁が薄い。310は二重口縁状の口縁部を持ち、胴部からカーブを描き開く。

312～326は底部資料である。312～324は深鉢の底部である。平底を呈するもの（312～318）、僅かに上げ底を呈するもの（319～321）、上げ底を呈するもの（322）、平底を呈するが、接地面が小さく、底面が厚くなるもの（323、324）に大別される。それぞれ組織痕等は確認できない。325は台付皿形土器の底部で器壁が厚くナデ仕上げである。326も底部資料であるが、接地面の径が著しく狭く、前者の325とは異なる器種が考えられる。

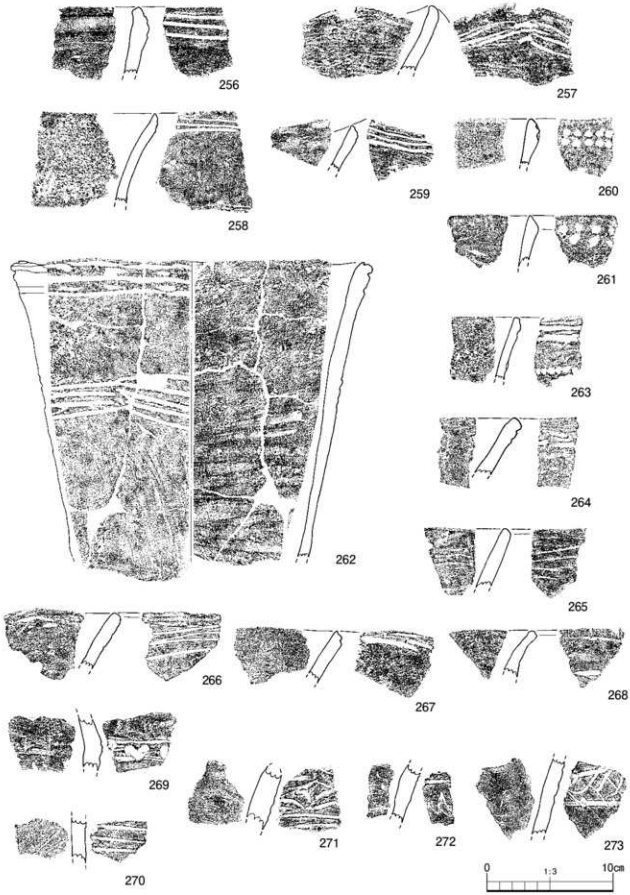
327～331は土錘である。何れも長さ５㎝ほどの楕円形を呈する。両端に抉りを施し、328、331は中央を浅く溝状の窪みもみられる。土器片からの転用品と考えられる。



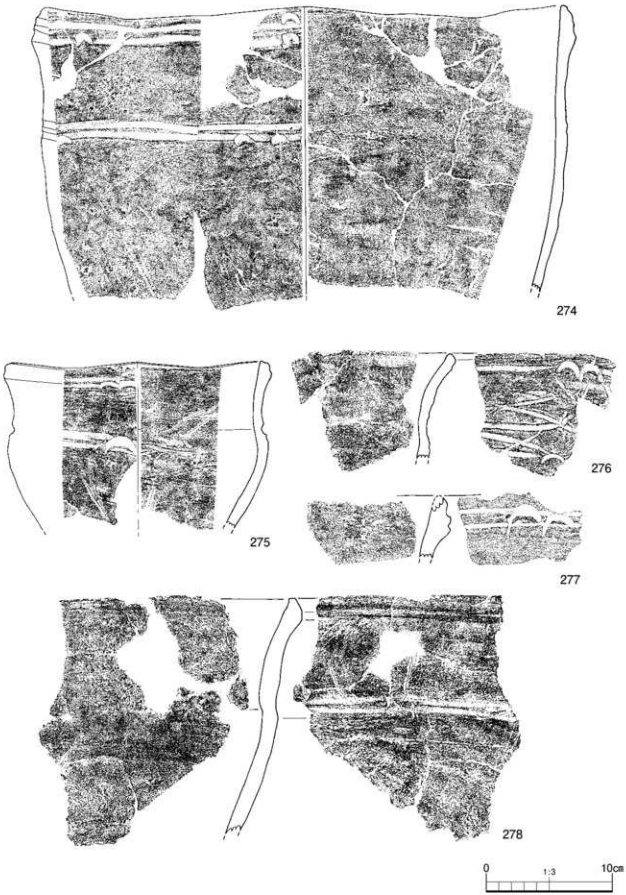
第41図　C区谷状の窪み出土土器実測図③（1/3）



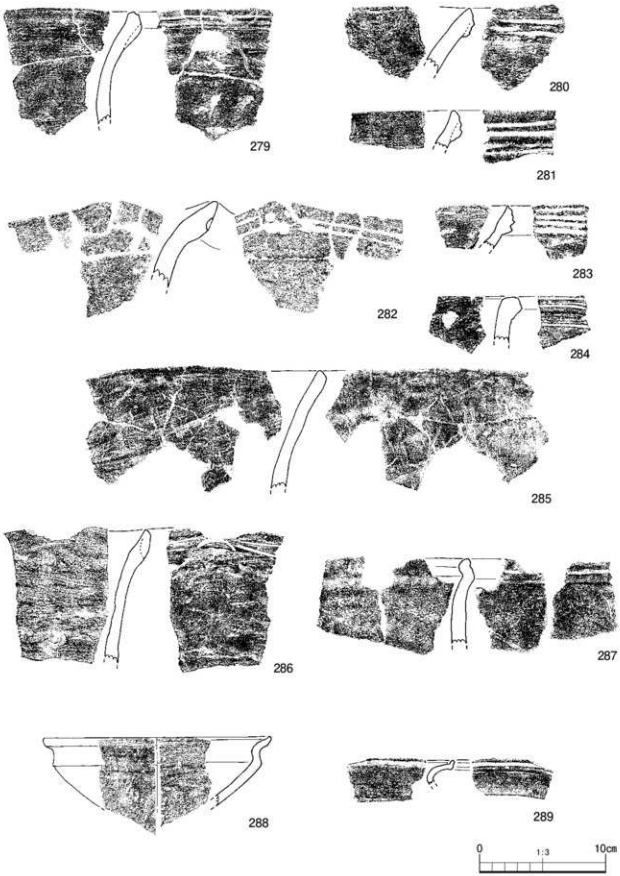
第42図　C区谷状の窪み出土土器実測図④（1/3）



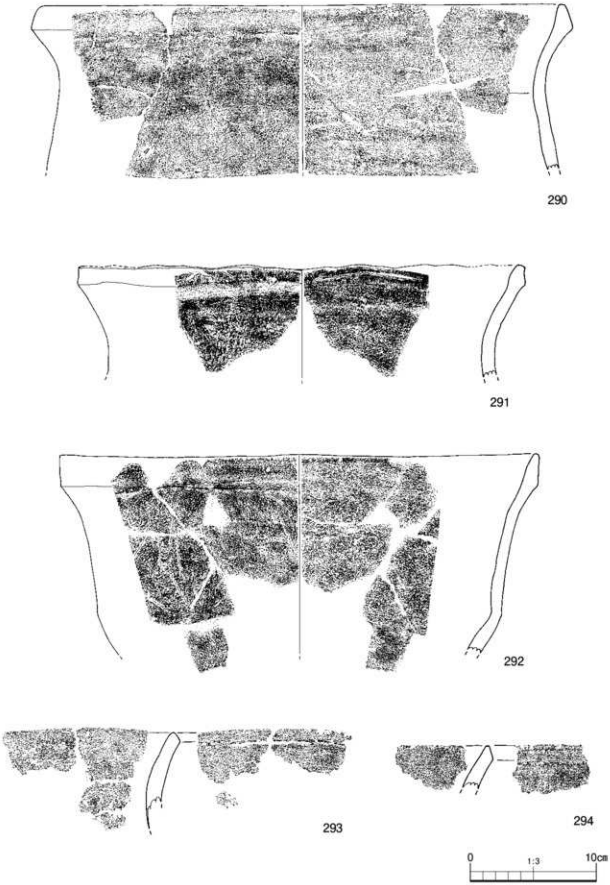
第43図　C区谷状の窪み出土土器実測図⑤（1/3）



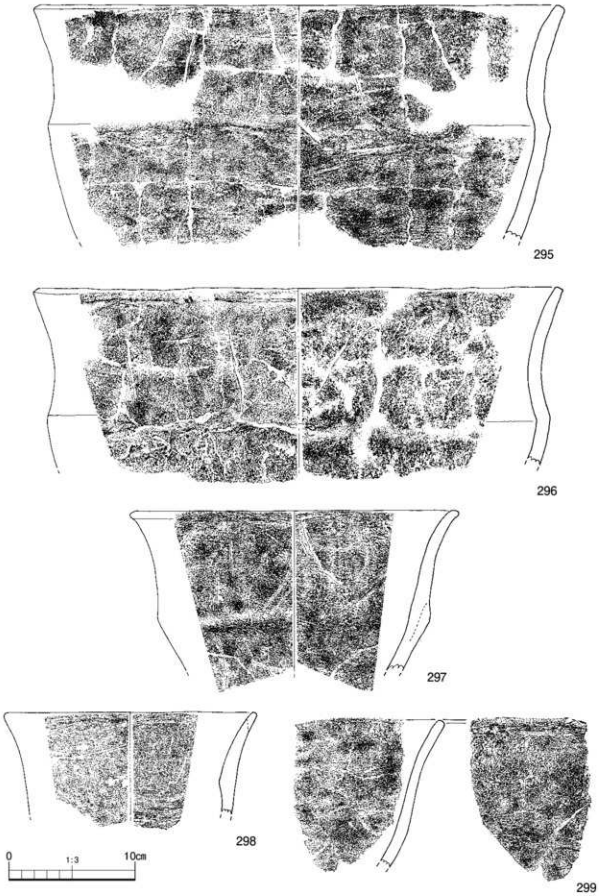
第44図　C区谷状の窪み出土土器実測図⑥（1/3）



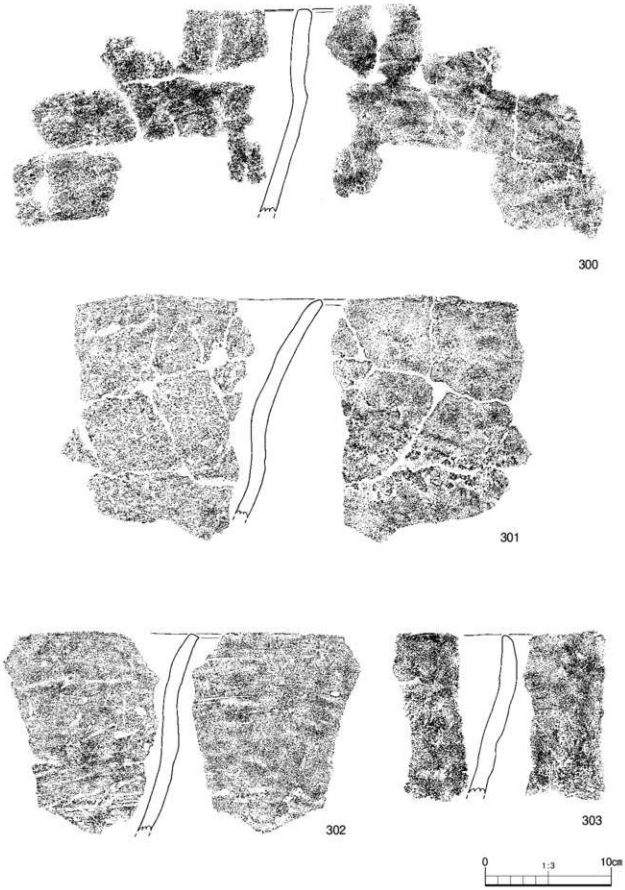
第45図　C区谷状の窪み出土土器実測図⑦（1/3）



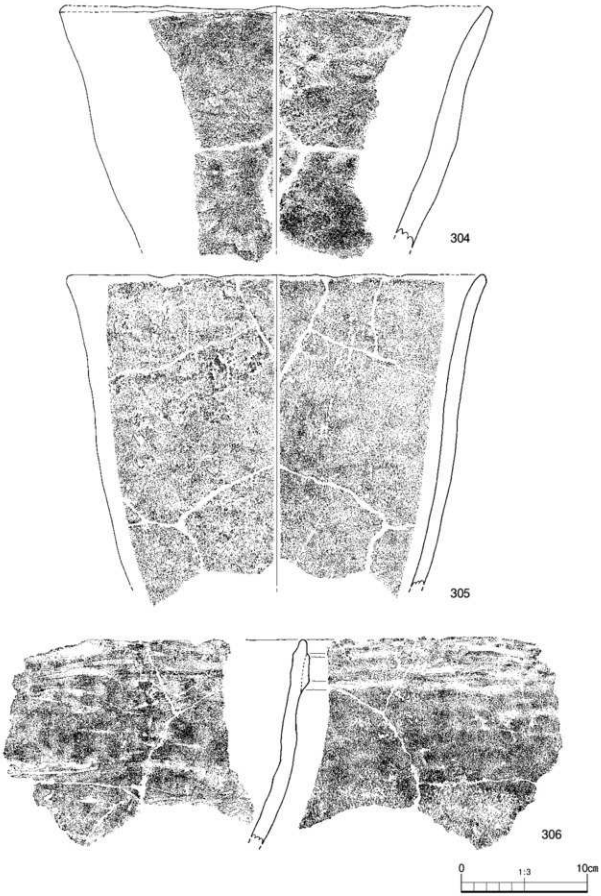
第46図　C区谷状の窪み出土土器実測図⑧（1／3）



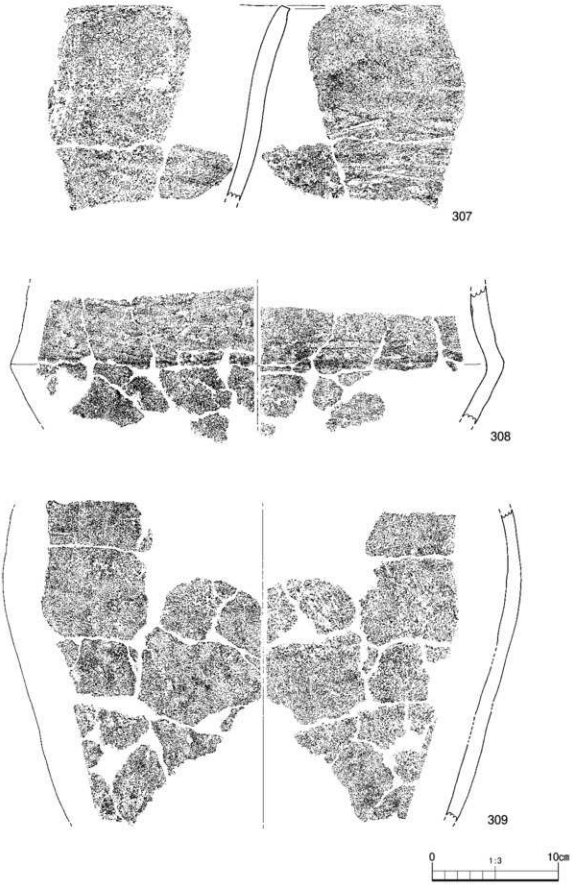
第47図　C区谷状の窪み出土土器実測図⑨（1/3）



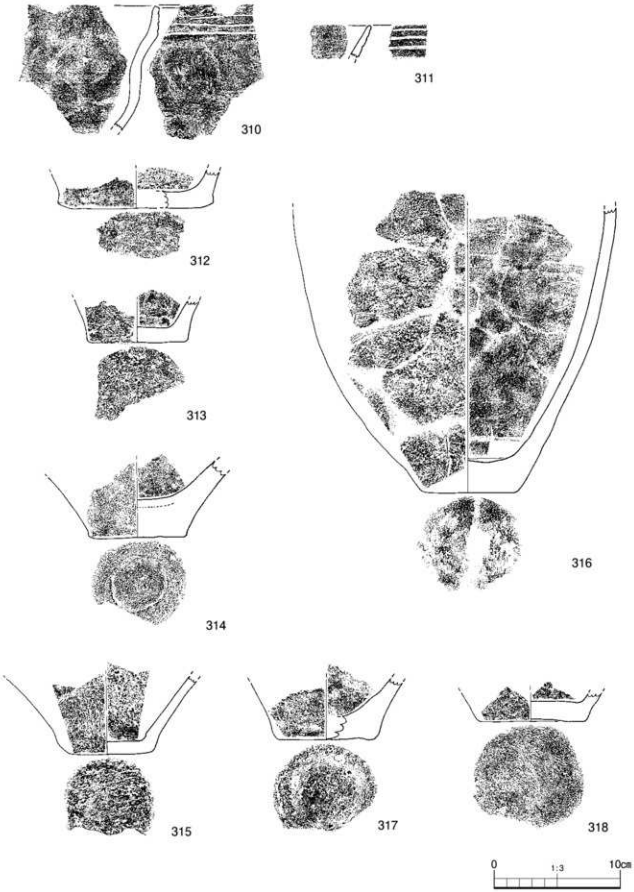
第48図　C区谷状の窪み出土土器実測図⑩（1/3）



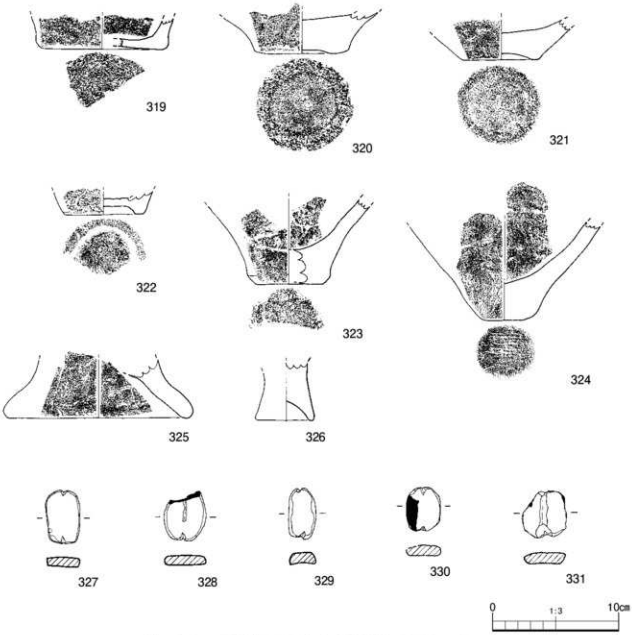
第49図　C区谷状の窪み出土土器実測図⑪（1/3）



第50図　C区谷状の窪み出土土器実測図⑫（1/3）



第51図　C区谷状の窪み出土土器実測図⑬（1/3）



第52図　C区谷状の窪み出土土器実測図⑭（1／3）

第10表　C区出土土器観察表①

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm)　(　):復元 口径	底径	器高	色調 外面	色調 内面	焼成	調整　文様 外面	調整　文様 内面	胎土(上:mm　下:量) A	B	C	D	E	備考	実測 番号
P50 第37図	204	SE 4	須恵器 坏	—	—	—	5Y5/4 オリーブ	2.5Y5/1 灰	良好	回転ナデ	回転ナデ					微 僅	須恵器	465
	205	SE 1	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/1 赤灰	5YR4/2 灰褐	良好	ナデ、刺突文、貼付突帯	ナデ	2 少	1 多	1 僅			市来　貼付突帯あり	462
	206	SE 4	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 褐灰	5YR4/1 褐灰	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ	1 少	1 僅				中岳Ⅱ　内面に黒斑あり	461
	207	SE 4	縄文土器 深鉢	—	—	—	N4/0 灰	10YR4/1 褐灰	良好	条痕の後ナデ、凹線文、三日月形の凹線文	条痕の後工具によるナデ	2 少	1 多				中岳Ⅱ　内外面に黒斑あり	463
	208	C SZ 1 Ⅳ	土師 鉢	(13)	—	—	2.5Y6/2 灰黄	10YR6/2 灰黄褐	良	ナデ	布痕		1 多				布痕	470
	209	SE 1	土師 鉢	(13)	—	—	5YR7/4 にぶい橙	2.5YR6/6 橙色	良	ナデ	ナデ	1 僅	微 少				布痕　接59	469
	210	C SZ 1 Ⅲ	土師 布痕	—	—	—	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ナデ	布痕	微 僅					布痕	468
	211	SZ 1	土師 布痕	—	—	—	2.5Y6/1 黄灰	10YR5/2 灰黄褐	良	ナデ	布痕		1 多				布痕	467
	212	SZ 1	土師 鉢	—	—	—	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	良好	ナデ	布痕	1 少	微 多				布痕	471
	213	SZ 1	縄文土器 深鉢	(24.3)	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐	良好	指オサエ、刺突文、ナデ	ナデ	4 多	1 微				納屋向	472
	214	SZ 1	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/3 褐	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	ナデ、刺突文、凹線文	条痕の後ナデ	2 少	1 僅	1 僅			市来	464
	215	SZ 1	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	条痕、貝殻刺突文	条痕後ナデ	1 少	1 僅	2 少			市来　外面に黒斑あり	466
P52 第39図	216	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR6/3 にぶい褐	10YR6/1 褐灰	良	ナデ、貝殻刺突文、凹線文	ナデ	2 僅	微 少				岩崎上層	558
	217	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	キザミ、凹線文、条痕後ナデ、刺突文	条痕後ナデ	1 多	微 僅				市来　内外面に黒斑あり	542
	218	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	キザミ、凹線文、刺突文、ナデ	条痕後ナデ	微 僅	微 僅				市来	547
	219	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/2 灰褐	5RP3/1 暗紫灰	良好	条痕	刺突文、凹線文	1 少	微 僅				市来	532
	220	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	貝殻刺突文、条痕後ナデ	条痕後ナデ	1 少	微 多	2 僅			市来　外面に突帯あり	455
	221	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	貝殻刺突文、凹線文、刺突文、ナデ	条痕	1 僅	微 僅				市来	545
	222	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	5YR4/2 灰褐	良好	貼付突帯、条痕後ナデ、貝殻刺突文、ナデ	条痕後ナデ	微 僅	1 僅	1 僅			市来	511
	223	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	竹管文、ナデ	ナデ	2 少	微 僅				市来	548
	224	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/3 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	貝殻刺突文、凹線文、条痕後ナデ	ナデ、指オサエ	2 少	微 少				市来	453
	225	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	刺突文、黒斑	ナデ	1 少	1 少				市来	518
	226	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/3 にぶい赤褐	7.5YR6/4 にぶい橙	不良	条痕の後ナデ、凹線文、貼付突帯（貝殻刺突文）、ナデ	ナデ	6 多	1 多				市来　外面に黒斑あり 口唇部にキザミ	506
	227	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ナデ、押引き	条痕の後ナデ	2 少	1 多				市来　突帯あり	475
	228	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	条痕の後ナデ、凹線文、突帯に刺突文	条痕の後ナデ	3 多	微 少				市来	536
	229	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/2 灰赤	2.5YR6/4 にぶい橙	良好	刺突文、凹線文	ナデ	微	1 少	1 多			市来	513

第11表　C区出土土器観察表②

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm) ( ):復元 口径	底径	器高	色調 外面	色調 内面	焼成	調整 文様 外面	調整 文様 内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測番号
P52 第39図	230	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	貝殻押引き、貼付突帯、条痕後ナデ	条痕後ナデ		微 僅				市来	457
			深鉢															
	231	SZ 2	縄文土器	—	—	—	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、凹線文、押引き文、刺突文（工具による）	ナデ	2 少	1 少	1 僅			市来　刺突文あり	456
			深鉢															
	232	掘乱坑	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐	良	ナデ、工具による刺突文、凹線文、貝殻刺突文	ナデ	3 多	微 多	2 僅			市来	512
			深鉢															
	233	C Ⅱ 層	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR4/2 灰褐	良好	条痕の後ナデ、貝殻刺突文	条痕の後ナデ	1 僅	1 少				市来	529
			深鉢															
	234	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	良好	貝殻刺突文、ナデ	ナデ	3 多	1 少	1 多			丸尾A	521
			深鉢															
	235	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	条痕後ナデ、貝殻刺突文	条痕後ナデ、ナデ	3 僅	微 少				丸尾A	493
			深鉢															
P53 第40図	236	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、条痕後ナデ、貝殻刺突文	条痕後ナデ	2 少	微 少				丸尾A	496
			深鉢															
	237	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR5/6 明赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	条痕の後ナデ、条痕	条痕の後ナデ、条痕	4 少	2 少	1 僅			丸尾B	501
			深鉢															
	238	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	条痕の後ナデ、貝殻刺突文	条痕の後ナデ	2 少	微 多				丸尾B	473
			深鉢															
	239	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	条痕の後ナデ、貝殻刺突文	ナデ	1 少	1 少				丸尾B　口唇部にキザミ	507
			深鉢															
	240	C Ⅱ 層	縄文土器	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	ナデ、条痕、刺突文、条痕の後ナデ	条痕	5 僅	1 多	1 僅			市来	534
			深鉢															
P55 第41図	241	SZ 2	縄文土器	(27.2)	—	—	2.5YR5/3 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ナデ、工具による刺突文	ナデ	3 少	1 僅				納屋向　接10	452
			深鉢															
	242	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、刺突文	ナデ	6 多	微 少				納屋向	520
			深鉢															
	243	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/3 にぶい赤褐	良好	凹線文、刺突文、ナデ	ナデ	5 多	1 少				納屋向	503
			深鉢															
	244	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙		刺突文	ナデ	1 少	1 少				納屋向	516
			深鉢															
	245	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ナデ、刺突文	ナデ	4 多	1 僅				納屋向　外面に黒斑あり	495
			深鉢															
	246	C Ⅱ 層	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ、刺突文	条痕後ナデ	2 多	微 僅				納屋向	543
			深鉢															
	247	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR6/4 にぶい橙	良好	貝殻刺突文、ナデ	ナデ	2 僅	微 少				納屋向	505
			深鉢															
	248	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	2.5YR4/2 灰赤	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ、凹線文、ナデ	1 僅					納屋向　内外面にススが付着	514
			深鉢															
	249	SZ 2	縄文土器	—	—	—	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR6/3 にぶい褐	良好	凹線文、キザミ、刺突文、ナデ	ナデ	1 僅	2 少	1 僅			納屋向　口唇部にキザミ	519
			深鉢															
	250	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良	ナデ、貝殻刺突文	条痕の後ナデ	6 少	微 僅				納屋向　内面に黒斑あり	504
			深鉢															
P56 第42図	251	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	貝殻刺突文、ナデ	ナデ	4 多	1 多	1 僅			納屋向	459
			深鉢															
	252	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ナデ、指ナデ、貝殻刺突文	条痕の後ナデ、指ナデ	4 少	微 僅				納屋向　内面に黒斑あり	508
			深鉢															
	253	SZ2	縄文土器	(24.2)	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐		ナデ、凹線文、刺突文	ナデ	1 僅	1 多				納曽	454
			深鉢															
	254	SZ 2	縄文土器	—	—	—	10YR4/2 灰黄褐	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	ナデ、凹線文	ナデ、条痕	2 僅	1 多				納曽　内外面に黒斑あり	517
			深鉢															
	255	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR4/3 にぶい赤褐	5YR4/1 褐灰	良好	ミガキ、凹線文	ミガキ	1 僅	1 少				納曽	522
			深鉢															

第12表　C区出土土器観察表③

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm)　(　):復元 口径	底径	器高	色調 外面	色調 内面	焼成	調整　文様 外面	調整　文様 内面	胎土(上:mm　下:量) A	B	C	D	E	備考	実測番号
P57 第43図	256	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR5/2 灰褐		凹線文、ナデ	ナデ		1 少				納曽	535
	257	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR4/1 褐灰	良好	ナデ、凹線文	ナデ	3 少	1 少				納曽　内外面に黒斑あり	537
	258	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/2 灰赤	5YR4/3 にぶい赤褐	良好	ナデ、凹線文	磨滅により不明	2 少	1 少				納曽　内外面に黒斑あり	458
	259	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR4/1 褐灰	良好	条痕の後ナデ、ナデ、凹線文	ナデ	2 僅	1 少				納曽　内面に黒斑あり	540
	260	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR6/3 にぶい黄橙	良好	ナデ、2列の列点文	ナデ	1	微 多				納曽	478
	261	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5YR6/6 橙色	良好	ナデ、刺突文	ナデ	2 僅	1 多				納曽	479
	262	SZ 2	縄文土器 深鉢	(26.8)	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ナデ、ミガキ、凹線文、刺突文	ナデ	5 多	1 少				納曽　外面に炭化物あり	449
	263	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ、凹線文、刺突文	ナデ	2 少	1 少				納曽	480
	264	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	10R5/2 灰赤	良好	ナデ、短い凹線文？	ナデ	2 少					納曽	481
	265	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR6/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、凹線文	条痕の後ナデ	2 多	1 多				納曽	483
	266	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、凹線文	ナデ	2 僅	微 少				納曽	484
	267	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ナデ、凹線文？	ナデ	4 多	2 少				納曽　口唇部にキザミ	509
	268	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	良	ナデ、凹線文	ナデ	3 僅	2 僅				納曽　内外面に黒斑あり	515
	269	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR3/1 黒褐	良好	ナデ、凹線文、ハート型の凹線文	ナデ	1 少	2 多				納曽	557
	270	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、凹線文	条痕		2 少	2 僅			納曽	556
	271	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	ナデ、凹線文	ナデ	4 多	微 多				納曽	551
	272	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR6/4 にぶい橙	良好	刺突文、凹線文、縄圧	ナデ	1 少	微 僅				納曽	554
	273	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ、凹線文、縄圧	ナデ	2 僅	1 少	1 僅			納曽　内面に黒斑あり	553
P58 第44図	274	SZ 2	縄文土器 深鉢	(21)	—	—	5YR4/3 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐	良好	ナデ、棒状刺突文、凹線文、指ナデ	ナデ	3 僅	微 多	2 少			中岳Ⅱ　外面に炭化物あり　内外面に黒斑あり	431
	275	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	(19.6)	—	—	5YR5/2 灰褐	10YR4/1 褐灰	良好	ナデ、三日月型凹線文、凹線文	ミガキ？	1 僅	微 僅				中岳Ⅱ　外面に黒斑あり	555
	276	複乱坑	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR4/1 褐灰	良	ナデ、凹線文、三日月状凹線文有り	ナデ	3 少	2 多				中岳Ⅱ　外面にスス付着	510
	277	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	10YR5/2 灰黄褐	良好	条痕後ナデ、凹線文	ナデ	2 僅	微 少				中岳Ⅱ	550
	278	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ、凹線文	ナデ	3 多	1 多				中岳Ⅱ	446
P59 第45図	279	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1 褐灰	10YR5/2 灰黄褐	良好	条痕、ナデ	条痕、ナデ	6 少	2 僅				中岳Ⅱ	562
	280	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	10YR3/1 黒褐	良好	条痕後ナデ、凹線文、貼付突帯	条痕後ナデ	1 僅	微 少				中岳Ⅱ　外面に炭化物あり	524
	281	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/1 褐灰	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	条痕後ナデ、凹線文、貼付突帯	条痕後ナデ		微 僅				中岳Ⅱ　外面にスス付着	531

第13表　C区出土土器観察表④

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm)　(　):復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整　文様 外面	内面	胎土(上:mm　下:量) A	B	C	D	E	備考	実測番号
P59 第45図	282	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR3/2 黒褐	2.5YR4/2 灰赤	良好	柄突文（棒状の道具による）、ナデ	ナデ	2 少	1 多				中岳Ⅱ　内面に黒斑あり	444
	283	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR4/1 褐灰	良好	四縄文、ナデ	ナデ、指オサエ	3 多	1 少				中岳Ⅱ	527
	284	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/1 赤灰	7.5YR4/1 褐	良好	ミガキ、四縄文、ナデ	ナデ	2 僅	1 少	1 僅			中岳Ⅱ	530
	285	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ	条痕	3 僅	微 僅				中岳Ⅱ　外面に黒斑あり　掲55	549
	286	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	10YR4/1 褐灰	良好	条痕後ナデ、四縄文	条痕後ナデ	2 僅	微 僅				中岳Ⅱ　内面に スス付着　三日月状の回縄文あり	525
	287	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	良好	ナデ、四縄文	ナデ	3 僅	1 少				中岳Ⅱ	546
	288	C Ⅱ層	縄文土器 浅鉢	(17.7)	—	—	10R4/1 暗赤灰	10YR4/1 褐灰	良好	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	1 多	1 多				黒色磨研模倣	430
	289	C Ⅱ層	縄文土器 浅鉢	—	—	—	5YR4/1 褐灰	10YR6/2 灰黄褐	良好	ナデ、四縄文	ナデ	1 僅	微 多				上加世田	538
P60 第46図	290	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	(40.6)	—	—	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ	1 僅	1 僅	微 多			無刻目突帯文　掲56	427
	291	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	(34.2)	—	—	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR6/3 にぶい褐	良好	ナデ	ナデ	2 少	2 多	2 多			無刻目突帯文　内外面に黒斑あり	523
	292	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	(37.6)	—	—	7.5YR6/3 にぶい褐	10YR6/2 灰黄褐	良	ナデ、指ナデ	ナデ、指ナデ	2 僅	微 僅				無刻目突帯文　内外面に黒斑あり	544
	293	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1 褐灰	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ	2 少	1 僅				無刻目突帯文　内外面に黒斑あり	432
	294	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1 褐灰	10YR5/1 褐灰	良好	ナデ	条痕の後ナデ	4 少	1 多	1 多			無文	438
P61 第47図	295	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	(41)	—	—	5YR5/2 灰褐	5YR5/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ	2 多	微 少	微 僅			無文　外面にスス付着　外面に炭化物あり	450
	296	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	(40.8)	—	—	7.5YR4/2 灰褐	10YR6/2 灰黄褐	良好	ナデ	ナデ	4 多	微 少	2 多			無文　外面に炭化物あり	445
	297	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	(24.9)	—	—	10YR5/2 灰黄褐	5YR5/1 褐灰	良	ナデ	ナデ	3 多	1 多				無文　内外面に黒斑あり	552
	298	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	(19.6)	—	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ	ナデ	3 僅	微 僅				無文　内外面に黒斑あり　内面にスス付着　掲52	564
	299	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	良	ナデ	ナデ	6 多	2 多				無文　外面に炭化物あり	560
P62 第48図	300	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/2 灰黄褐	7.5YR6/2 灰褐	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ	1 多	微 僅				無文　外面にスス付着　外面に炭化物あり	447
	301	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 褐灰	5YR4/1 褐灰	良好	ナデ	ナデ	3 多	1 僅				無文　外面に炭化物あり	429
	302	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/1 褐灰	7.5YR5/2 灰褐	良好	条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	3 少	1 少	1 僅			無文　外面に黒斑あり	433
	303	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/2 灰黄褐	良	ナデ	ナデ	1 多	1 多				無文	541
P63 第49図	304	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	(33.3)	—	—	7.5YR5/2 灰褐	5YR7/1 明褐灰	良好	ナデ	ナデ		2 多				無文	442
	305	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	(32.6)	—	—	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/1 灰白	良	ナデ	ナデ	3 少	1 多				無文　外面に炭化物付着　内外面に黒斑あり	440
	306	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 明褐灰	7.5YR4/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ		2 多				無文　外面に炭化物付着	448
P64 第50図	307	C Ⅱ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1 褐灰	10YR5/1 褐灰	良	ナデ	ナデ	6 多	1 多	2 僅			無文　外面に黒斑あり	434

第14表　C区出土土器観察表⑤

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm)　(　):復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整　文様 外面	内面	胎土(上:mm　下:量) A	B	C	D	E	備考	実測番号
P64 第50図	308	C Ⅱ 層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	良好	ナデ	ナデ	5 多	1 多	1 多			無文	439
	309	C Ⅱ 層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR6/2 灰褐	10YR5/1 褐灰	良好	ナデ	ナデ	3 多	1 多	1 僅			無文　内外面に黒斑あり　接60	435
P65 第51図	310	C Ⅱ 層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1 褐灰	10YR4/1 褐灰		凹線文、ナデ	ナデ	2 多	微 僅	微 僅				528
	311	C Ⅱ 層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR3/1 黑褐	5YR4/1 褐灰	良好	ナデ、凹線文	ナデ		微 多					526
	312	C Ⅱ 層	縄文土器 深鉢	—	(10)	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ、指オサエ	ナデ	2 多	1 僅				底部	428
	313	C Ⅱ 層	縄文土器 深鉢	—	(7.4)	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ	1 少	微 僅				底部	566
	314	C14	縄文土器 深鉢	—	(7.6)	—	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y6/1 黄灰	良好	ナデ	ナデ	2 少	1 少	1 僅			底部　底部に円形の浅い凹あり	423
	315	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	(6.55)	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良	ナデ	ナデ	7 多	2 多				底部　内面に黒斑あり	494
	316	C Ⅱ 層	縄文土器 深鉢	—	(7.2)	—	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ	4 少	1 多	1 僅			底部　接56	426
	317	C Ⅱ 層	縄文土器 深鉢	—	(7.4)	—	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/1 褐灰	良好	ナデ	ナデ	5 多	2 多	1 僅			底部	563
	318	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	8.1	—	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良	ナデ	ナデ	7 少	微 僅	1 僅			底部	497
P66 第52図	319	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	(9.4)	—	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良	ナデ、指ナデ	ナデ	2 少	微 僅	1 僅			底部　外面に黒斑あり	499
	320	C Ⅱ 層	縄文土器 深鉢	—	7.4	—	7.5YR6/3 にぶい褐	10YR6/2 灰黄褐	良好	ナデ	ナデ	2 少	1 少	1 少			底部	561
	321	C Ⅱ 層	縄文土器 深鉢	—	5.95	—	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/1 褐灰	不良	ナデ	ナデ	5 多	3 多	2 僅			底部	567
	322	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	(6)	—	7.5YR7/3 にぶい橙	10YR5/2 灰黄褐	良	ナデ	工具によるナデ	1 少	微 多				底部	425
	323	C Ⅱ 層	縄文土器 深鉢	—	(5.1)	—	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR3/1 黑褐	良好	ナデ	ナデ	2 多	1 僅	1 僅			底部　内面に炭化物あり	565
	324	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	4	—	7.5YR5/3 にぶい褐	10R4/2 暗赤灰	良好	ナデ	ナデ	2 僅	1 少				底部　ケズリ痕ヨ	424
	325	SZ 2	縄文土器 台付鉢or甕	—	(14.2)	—	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ	ナデ	2 少	1 少				内面に黒斑あり	500
	326	C Ⅱ 層	縄文土器 台付鉢or甕	—	(4.4)	—	N6/0 灰	—	良好	ナデ		3 多	1 多					576
	327	C Ⅱ 層	土錘	—	—	—	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	良好	ナデ	ナデ	2 少	1 少	1 僅			内面に黒斑あり	580
	328	C Ⅱ 層	土錘	—	—	—	10YR6/2 灰黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙		ナデ、工具痕	ナデ	2 多		1 少				581
	329	C Ⅱ 層	土錘	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/2 灰褐		ナデ	ナデ	2 少	3 少	1 僅				582
	330	C Ⅱ 層	土錘	—	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/1 黄灰	良	ナデ	ナデ	微 僅	微 少					583
	331	SZ 2	土錘	—	—	—	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	不良	ナデ、工具痕	ナデ	2 少	微 僅					584

第７節　出土石器（第53～58図）

332～338は打製石鏃である。平面形態が正三角形を呈する333、335、二等辺三角形を呈する332、334、336、338がある。

339は石匙である。縦型の石匙で丸味を帯びた刃部を持つ、刃部は両面から加工し作りだしている。

341～357は石錘である。341、342は有溝石錘で、341は小ぶりな角礫を利用し、342は円礫を利用している。ともに利用石材は砂岩である。343は切目石錘で、楕円形で扁平な円礫を利用し、長軸の両端に切目を入れる。切目を設ける際に軸を揃えるためか、一端には３カ所に切目が見られる。利用素材は砂岩である。344～355、367は礫石錘である。楕円形もしくは円形に近い円礫を素材とし、長軸方向の両端に抉りを持つ。抉りは礫の両面から打ち欠いて抉りを作り出している。今回の調査で最軽量のものは344で9.0g、最重量は357で1,113gを測る。利用石材は349が凝灰岩、それ以外が砂岩である。356、358、360は敲石から転用した石錘である。石錘には扁平な円礫を素材とする中、360は厚みのある素材を利用している。利用石材は砂岩である。359は砥石から転用した石錘である。楕円形の扁平な円礫を利用し、片面に擦痕が残る。利用石材は砂岩である。

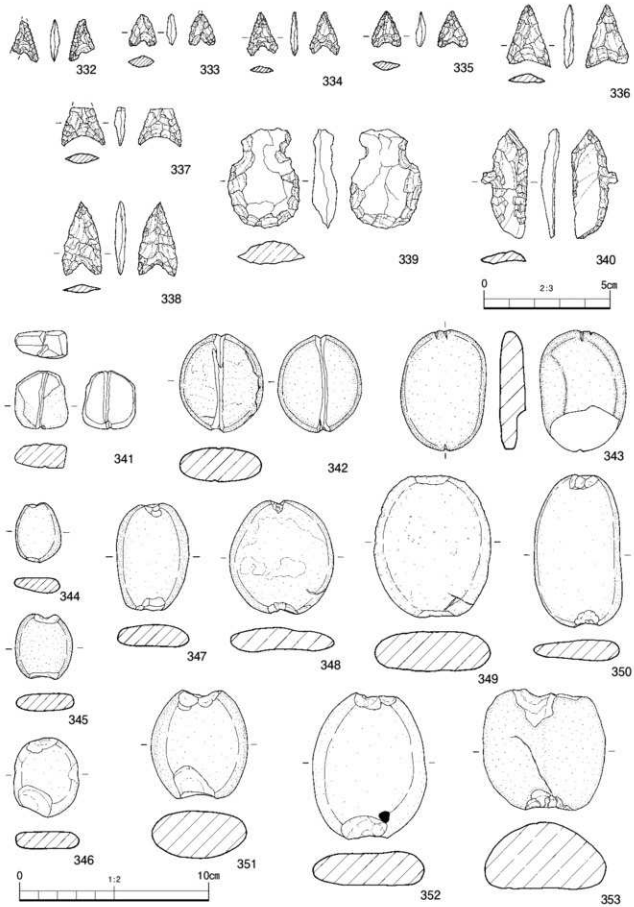
361～379は敲石である。いずれも敲打痕が残るが、一定の規則性は見られず、いずれもあらゆる部分を利用した痕が残るが、370のみは１面のみを何度も使用していたようである。372、374、375は素材が大きいため、石皿として使用していた可能性が高い。379は敲打痕が残る面の裏側に棒状の素材を研磨した深い溝が残る。利用石材は砂岩である。

380、382、383、385、386は砥石である。380、382、383は両面に、385、386は片面に砥ぎ面が見られる。382は全縁に敲打痕が残る。利用石材はいずれも砂岩である。

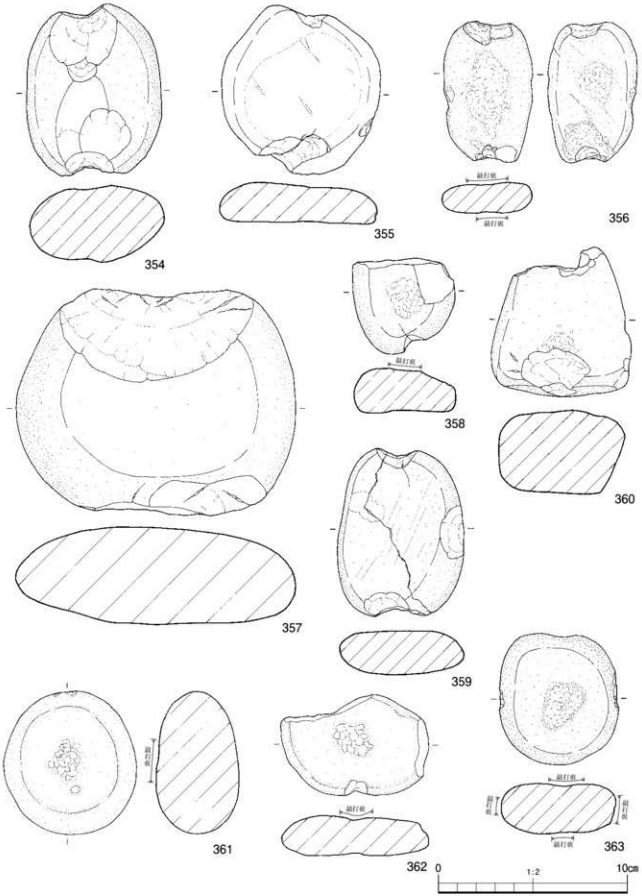
381、384は磨石である。表面全体が平滑であるが、擦痕は残っていない。利用石材は381が尾鈴山酸性凝灰岩で、384が頁岩である。

387～393は磨製石斧である。387はで敲打による整形後丁寧に磨かれている。刃部は両面に整形時の擦痕が残る。388は磨製石斧と考えられるが、風化が著しく敲打痕は残っていない。刃部に擦痕が残る。利用石材は砂岩である。390、391、393は整形時の敲打痕が全体に残る。391は刃部、基部の両端が欠損し、393は刃部が欠損する。390は基部に比べ刃部が幅狭であり、石斧とは別の用途が考えられる。利用石材は頁岩である。

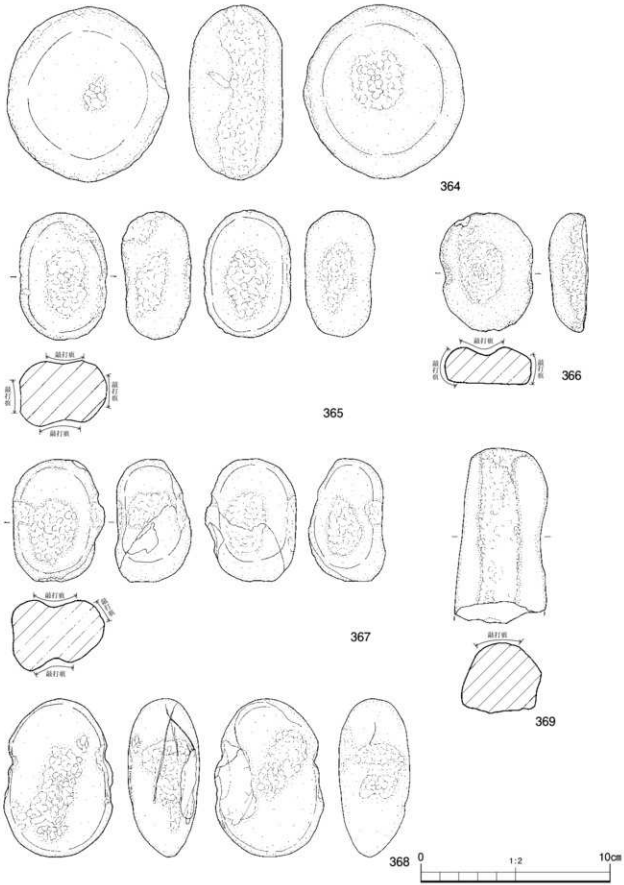
394～407はスクレイパーである。394～399はスクレイパーと分類しているものの、同時に敲打痕が多数見られ、敲石としても利用していたことが考えられる。400は二等辺三角形様の剥片の一側縁のみを刃部として利用している。401～404は断面形が三角形状になる一群である。何れも一部に自然面が残る。402、403は直線状の刃部、404、405はカーブを描く刃部、406、407は側縁の一辺を刃部としている。利用石材は400～403は砂岩、404～407は頁岩である。



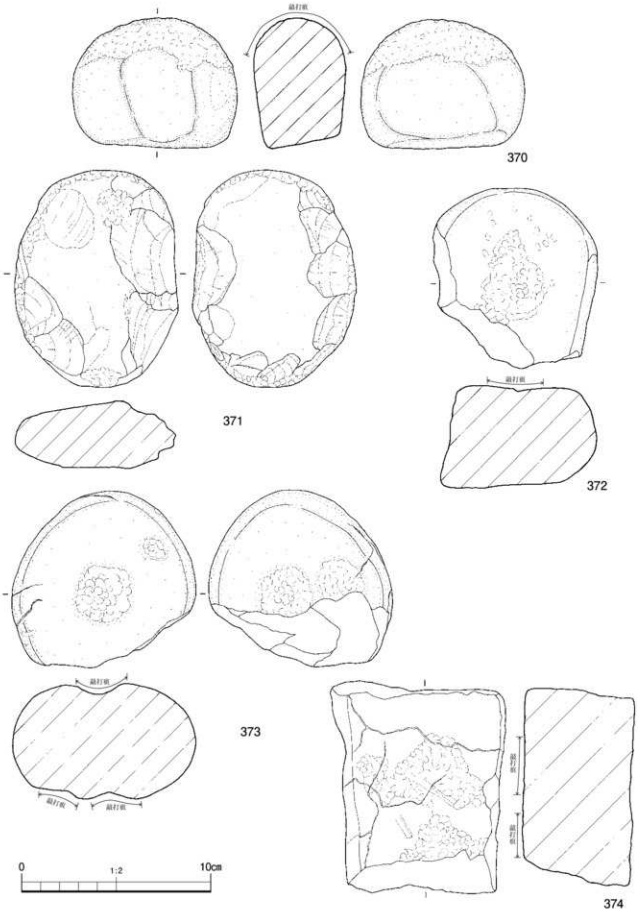
第53図　出土石器実測図①（2/3、1/2）



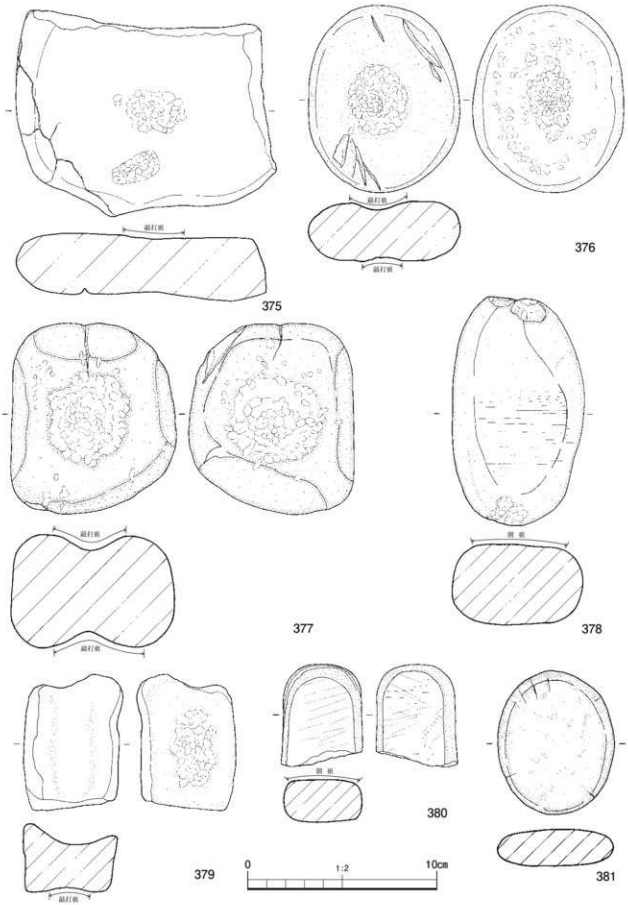
第54図　出土石器実測図②（1／2）



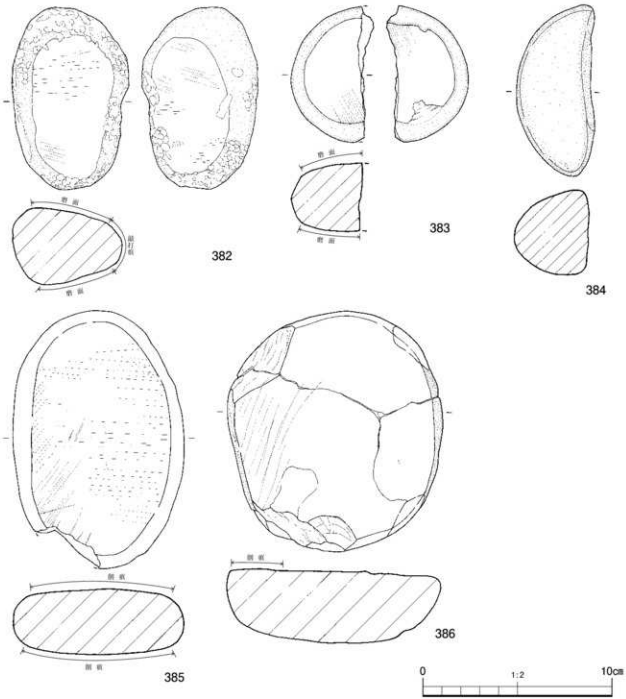
第55図　出土石器実測図③（1／2）



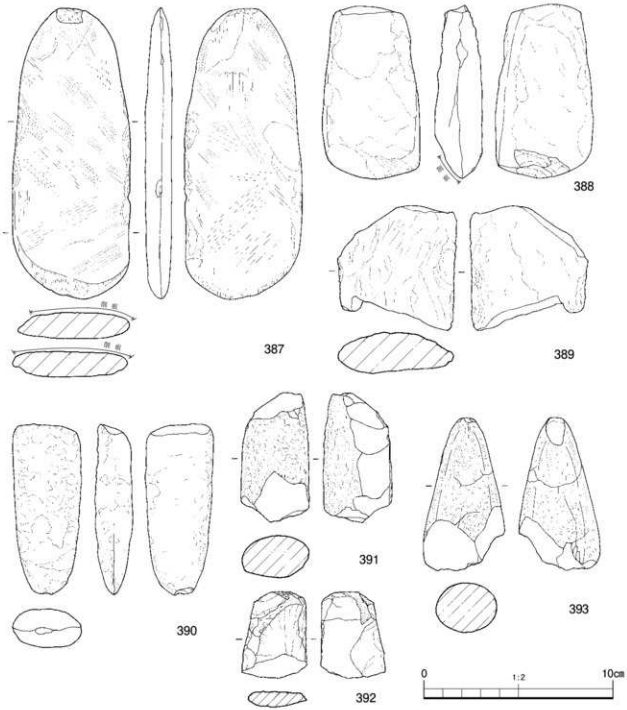
第56図　出土石器実測図④（1/2）



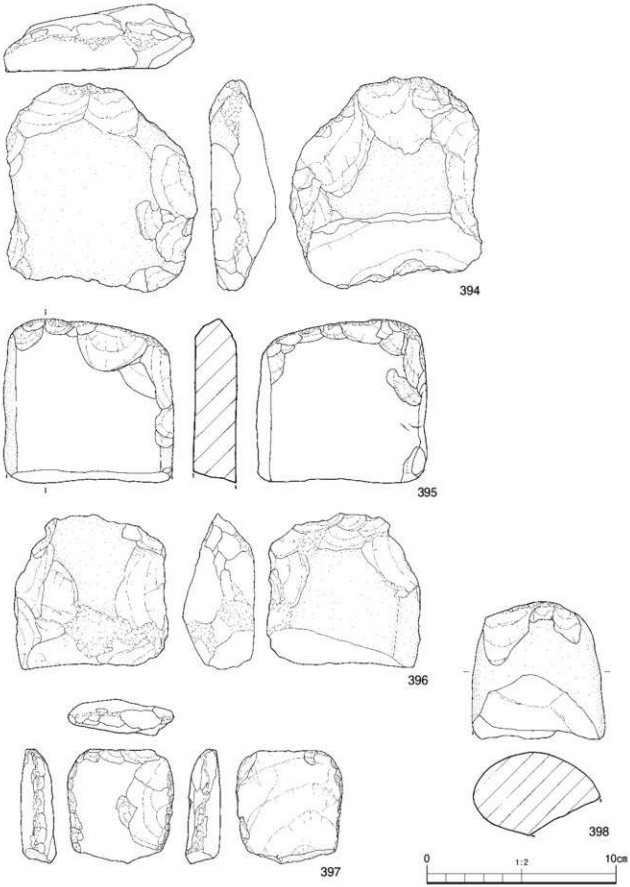
第57図　出土石器実測図⑤（1/2）



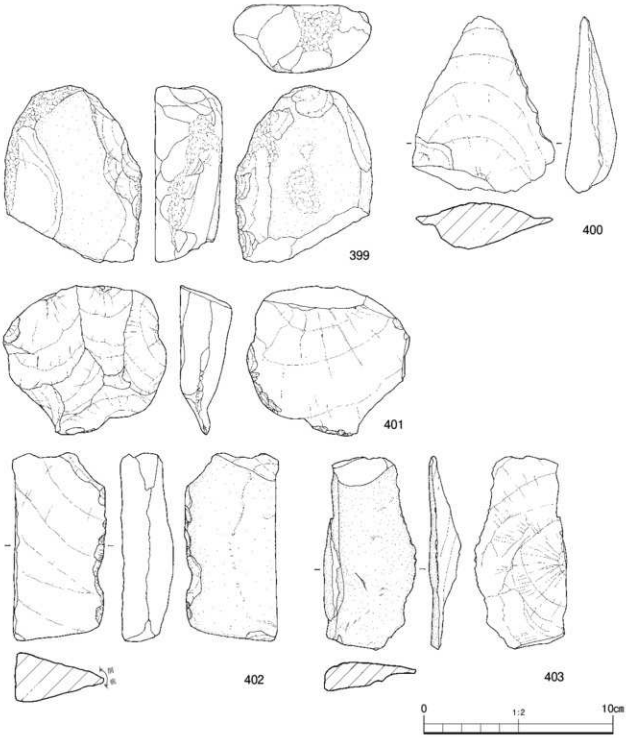
第58図　出土石器実測図⑥（1／2）



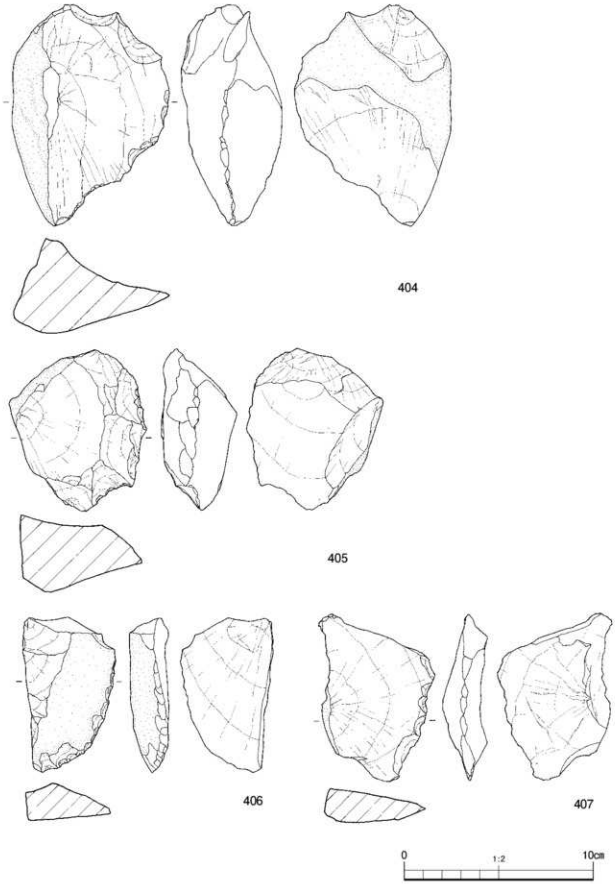
第59図　出土石器実測図⑦（1／2）



第60図　出土石器実測図⑧（1／2）



第61図　出土石器実測図⑨（1／2）



第62図　出土石器実測図⑩（1／2）

第15表　出土石器観察表①

掲載頁	図番号	掲載番号	遺構等	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(kg)	備考	実測No.
73	第53図	332	ＳＣ１	石鏃	黒曜石	(1.7)	(1.1)	0.4	0.1	未製品　姫島産	661
		333	ＳＣ１	石鏃	黒曜石	1.2	1.05	0.4	0.2	欠損品　姫島産	662
		334	ＡⅡ層	石鏃	チャート	1.7	1.2	0.3	0.4		665
		335	ＡⅡ層	石鏃	流紋岩系	1.4	1.2	0.4	0.4		666
		336	ＳＺ２	石鏃	チャート	2.5	1.7	0.45	1.3		663
		337	表面採集	石鏃	チャート	(1.5)	1.75	0.5	0.8	欠損品	668
		338	ＣⅠ層	石鏃	玉髄	2.95	1.55	0.45	1.5		667
		339	ＡⅡ層	石匙	玉髄	4	2.85	0.9	8.9		664
		340	ＡⅠ層	石匙	流紋岩	1.85	4.85	0.7	3.6		669
		341	ＡⅠ層	石錘	砂岩	3.05	2.8	1.35	16.2		627
		342	ＣⅡ層	石錘	砂岩	5.2	4.4	1.8	54.4		602
		343	ＢⅠ層	石錘	砂岩	6.45	4.55	1.35	59.9		609
		344	ＳＣ１	石錘	砂岩	3.15	2.4	0.8	9		599
		345	ＢⅠ層	石錘	砂岩	3.5	3.09	0.9	14.3		590
		346	ＡⅠ層	石錘	砂岩	4.15	3.45	0.95	18.3		589
		347	ＡⅠ層	石錘	砂岩	5.5	3.3	1.2	43.4		588
		348	ＡⅠ層	石錘	頁岩	6	5.5	1.25	62		587
		349	ＳＥ２	石錘	凝灰岩	7.5	6.15	2.15	104.4		597
		350	ＡⅠ層	石錘	砂岩	8	4.55	1.05	67		585
		351	ＣⅡ層	石錘	砂岩	5.75	5.15	2.45	100.7		592
		352	ＳＥ１	石錘	砂岩	7.75	6	1.8	130.1		595
		353	ＡⅡ層	石錘	砂岩	6.45	6.45	3.6	206.3		658
74	第54図	354	ＡⅠ層	石錘	砂岩	9.05	8.15	4.1	323.2		586
		355	表面採集	石錘	砂岩	8.45	8.9	2.1	198.6		598
		356	ＡⅡ層	石錘	砂岩	7.5	4.72	1.68	95.5		657
		357	ＣⅡ層	石錘	砂岩	12	14.8	5.15	1113.1		593
		358	ＣⅡ層	石錘	砂岩	5.05	5.4	2.35	87.3		591
		359	ＣⅡ層	石錘	砂岩	8.85	6.7	2.3	197		594
		360	ＳＺ１	石錘	砂岩	7.9	7.45	4.45	342.9		596
		361	表面採集	敲石	砂岩	7.6	7.05	4.45	29.5		633
		362	ＡⅠ層	敲石	砂岩	5.35	7.8	2.1	115.3		631
		363	ＣⅡ層	敲石	砂岩	7	6.3	2.65	173.4		603
75	第55図	364	ＣⅠ層	敲石	砂岩	9.25	8.55	5	508.2		621
		365	ＣⅡ層	敲石	砂岩	6.6	4.6	3.4	165.4		628
		366	ＡⅡ層	敲石	砂岩	6.28	2.1	2	86.2		659
		367	ＡⅠ層	敲石	砂岩	6.5	4.85	4.9	143.2		625
		368	ＡⅢ	敲石	砂岩	8.4	5.78	3.7	225.1		630
		369	ＣⅠ層	敲石	砂岩	9.3	4.9	3.7	266.5		613

第16表　出土石器観察表②

掲載頁	図番号	掲載番号	遺構等	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(kg)	備考	実測No.
76	第56図	370	ＢⅠ層	敲石	砂岩	6.9	8.7	4.9	382.8		612
		371	ＳＺ１	敲石	頁岩	11.5	8.7	3.6	536.6		620
		372	ＣⅡ層	敲石	砂岩	9.5	8.7	5.4	592.2		622
		373	ＳＥ３	敲石	砂岩	9.3	9.75	6.1	658.1		623
		374	ＳＺ２	敲石	砂岩	11.3	9.3	5.95	993.1		635
77	第57図	375	ＳＺ２	敲石	砂岩	13.8	10.8	3.2	782.1		632
		376	表面採集	敲石	砂岩	9.9	8	3.15	359.7		617
		377	ＢⅡ層	敲石	砂岩	10.1	8.7	6	784.7		616
		378	ＣⅠ層	砥石	砂岩	12.15	7	4.25	520.7		619
		379	ＡⅡ層	砥石	砂岩	7.2	5.25	3.65	165.6		626
		380	表面採集	砥石	砂岩	5.45	4.35	2.25	80		660
		381	ＳＺ２	砥石	凝灰岩	7.6	6.15	1.95	133.3	尾鈴酸性岩	600
78	第58図	382	ＳＺ２	砥石	砂岩	9.65	6.2	4.1	324.8		651
		383	ＳＺ２	砥石	凝灰岩	7.2	4.35	3.8	152.9	尾鈴酸性岩	615
		384	ＡⅡ層	砥石	砂岩	9.05	4.15	3.9	244		607
		385	ＳＺ１	砥石	砂岩	13.6	9	3.5	661.3		605
		386	ＣⅡ層	磨石	砂岩	12.75	11.4	3.9	754.6		608
79	第59図	387	ＡⅠ層	石斧	頁岩	15.4	6.2	1.4	233.5	磨製	637
		388	ＡⅠ層	石斧	砂岩	9.2	5.3	2.5	169.5		641
		389	ＳＥ１	石斧	砂岩	6.6	6.3	2.2	124.7		638
		390	ＳＥ１	石斧	砂岩	9.05	3.6	2.05	100		655
		391	ＢⅠ層	石斧	頁岩	6.85	3.65	2.25	79		653
		392	ＳＥ１	石斧	泥岩	4.68	3.3	0.85	19	磨製	652
		393	表面採集	石斧	頁岩	8.1	4.3	2.55	118.7		654
80	第60図	394	ＡⅡ層	スクレイパー	頁岩	10.1	10.1	3.4	446.8	敲打痕	640
		395	ＣⅠ層	スクレイパー	砂岩	8.6	9	2.35	371.8	敲打痕	606
		396	ＡⅠ層	スクレイパー	砂岩	8.2	8.2	3.75	323.5	敲打痕	643
		397	ＡⅡ層	スクレイパー	砂岩	6.05	5.65	1.9	79.7	敲打痕	644
		398	ＳＺ１	スクレイパー	砂岩	7.25	7.05	4.4	266.8	敲打痕	610
81	第61図	399	表面採集	スクレイパー	砂岩	9.38	7.25	3.55	331.4	敲打痕	642
		400	ＳＥ１	スクレイパー	砂岩	9.35	7.55	2.45	120.5		639
		401	ＡⅠ層	スクレイパー	砂岩	7.9	8.65	2.7	161.3		646
		402	ＡⅡ層	スクレイパー	砂岩	9.95	4.9	2.8	154.5		656
		403	ＡⅠ層	スクレイパー	砂岩	10.28	4.9	1.5	64.5		650
82	第62図	404	表面採集	スクレイパー	砂岩	11.7	8.35	5.3	332.8		649
		405	ＡⅡ層	スクレイパー	頁岩	8.55	7.25	4.1	228.4		648
		406	ＣⅡ層	スクレイパー	頁岩	8.2	4.98	1.95	84.8		647
		407	ＳＥ１	スクレイパー	頁岩	8.85	6.1	1.8	88.8		645

第Ⅳ章　総括

第１節　縄文時以外の遺構について

今回の調査で縄文期以外の遺構が確認されたのはＣ区のみである。池状遺構、１号溝状遺構、２号溝状遺構、４号溝状遺構、３号土坑、４号土坑である。２基の土坑に関しては検出状況から、４号溝状遺構に伴う遺構と考えられるが、それ以外の遺構は埋土中から９～10世紀に相当する土師器、須恵器が出土しており、相当期に使用された遺構と考えられる。本文中でも述べたように池状遺構と１号溝状遺構は遺構同士の先後関係を確認できず、同時期に使用された遺構と考えられる。これまでに述べたように遺跡の傍らには山塊が迫っており、特にＣ区の延長上には山塊の谷部が控えていることが確認できる。その谷部の出口付近の水を得やすい地点に設けられ、土層の最下層でグライ化が確認でき、調査中も常に湧水のあったこの池状遺構は溜め井として機能していたと考えられ、底面が池状遺構とは反対側に向かって下り勾配になる１号溝状遺構はその排水用の溝だったと考えたい。

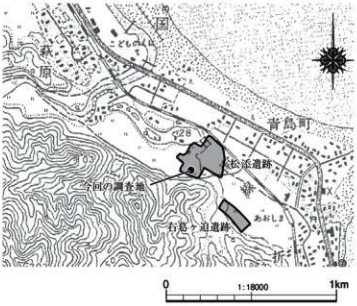
第２節　縄文時代の松添遺跡の環境

今回の調査で確認された遺物の大半はＡ区、Ｂ区の基本層序Ⅱa層、Ⅱb層の遺物包含層からの出土であった。Ａ区Ⅱa層の遺物出土が集中する範囲、Ｃ区Ⅱb層の遺物出土が集中する範囲ともにそれぞれ偏りが見られ、調査区外への遺物の分布の広がりを見せる。その先にあるのが平成５年に宮崎市が発掘調査を実施した調査区にあたる。（第２図）この調査区はＧ区と付され、調査区全面で縄文時代後期から晩期にかけての高密度の遺物包含層が確認されている。今回の調査で確認されたⅡa層、Ⅱb層の遺物集中出土範囲は平成５年調査のＧ区で確認されたそれの縁辺部が捉えられたものと考えられる。昭和20年代からの松添貝塚の学術調査を含め、松添遺跡では今回の調査を合わせ、約9800㎡を面的に発掘調査したことになる。特に平成４年から７年にかけて実施された土地区画整理事業に伴う発掘調査では、縄文時代後期晩期の土器を主体とする遺物がパンケース換算で合計1800箱以上出土しており、当該地で大規模な縄文期の集落を想起することができるが、検出された遺構は、集石遺構が１基、円形の土坑が２基確認されたのみで、遺物量に見合うほどの遺構は確認されていない。当時の調査担当者は、特に遺物が集中して出土した場所は、調査時も水がよく湧く場所であったため、本来、遺構を設けるには適さない環境だったとしており、当該地は縄文時代後期後半から晩期の間は土器廃棄場として利用されていたのではないかと結論付けていた。

今回実施された発掘調査においても縄文時代後期晩期の土器は合計160箱以上したが、縄文時代に相当すると考えられる遺構はＡ区で検出された１号土坑、２号土坑の２基のみであった。

宮崎市田野町にある本野原遺跡は約9000㎡の範囲に縄文時代後期を中心とする竪穴建物113軒、掘立柱建物などが確認されており、西日本最大級の縄文集落とされる。その本野原遺跡でも出土量は約450箱である。松添遺跡の合計2000箱近くになるその出土量は突出しており、傍らに大規模な集落があったことを想起せざるを得ない。第Ⅰ章で述べたように、遺跡の南西側に控える山塊上には縄文集落を形成できる平坦な土地は見当たらないため、丘陵上で生活を営む人々がもたらした遺物とは考えにくい。

松添遺跡のある海岸線に平行して形成された長さ約3.0㎞、幅0.3～0.5m、標高11.0m程の砂丘には、右葛ヶ迫遺跡、納屋向遺跡などの縄文期の遺跡が点在する。中でも右葛ヶ迫遺跡と松添遺跡は直線距離で300mと近く、調査では縄文時代中期～晩期の竪穴建物２軒、集石遺構８基確認されている。右葛ヶ迫遺跡も遺跡の傍らまで山塊が迫っており、調査で確認された縄文期の遺構の広がりは海側の砂丘上には砂丘上に営まれた集落の縁辺部のとも考えられ、集落本体は海に向かって広がる砂丘上に形成される可能性がある。



第63図　昭和40年頃の松添遺跡の周辺地形（１/18000）

調査地遠景（宮崎市街地方面を望む）［南から］

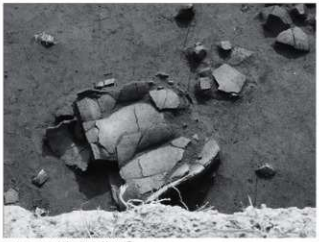
調査地遠景（青島本島を望む）［西から］

図版２

A区Ⅲ層検出状況［上空から］

A区Ⅱ層遺物出土状況①［北から］

A区Ⅱ層遺物出土状況②［南から］

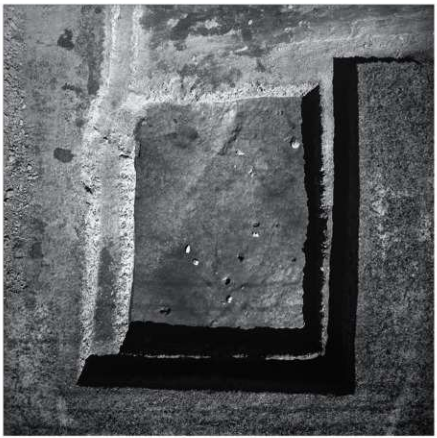


A区Ⅱ層遺物出土状況③

A区Ⅱ層遺物検出状況

図版３

左上：Ａ区１号土坑遺物出土状況［東から］
右上：Ａ区２号土坑遺物出土状況［東から］
左下：Ａ区３号溝状遺構遺物出土状況［東から］



Ｂ区Ⅴ層検出状況［上空から］